



観光DXによる地域経済活性化に関する 先進的な観光地の創出に向けた実証事業

成果報告書

北陸インバウンド観光DX推進事業

北陸インバウンド観光DX・データコンソーシアム

2025年1月31日

目次

1. はじめに

1. 地域の魅力・特徴

1. 富山県／石川県／福井県

2. 地域が目指す姿

1. 中長期・実証事業期間の目的

3. 実証事業

1. 全体像

2. 目標設定・取組内容

3. 各取組の詳細

取組1.インバウンド観光データの網羅的な収集・把握

取組2.オープンデータ化、見える化、BIツール化等の推進

取組3.データの社会実装及び必要な環境の整備

取組4.データリテラシーの高い人材の育成

5. 総括

1. 実証事業の成果

2. 今後の展望

5. 実施体制

1. 体制図

6. おわりに

改変履歴

成果報告書の改変を行った場合、以下の表に「版数」「変更日時」「変更頁」「変更内容」を記載してください。

版数	変更日時	変更頁	変更内容
第〇版	〇〇年〇月〇日	〇ページ	〇〇〇〇

1.はじめに

1.はじめに

「観光DXによる地域経済活性化に関する先進的な観光地の創出に向けた実証事業」
において、推進する実施主体を示します。

コンソーシアム名

観光 DX による地域経済活性化に関する 先進的な観光地の創出に向けた実証事業

実施主体

■ 代表団体／企業

国立大学法人金沢大学

■ 活動地域

北陸 3 県（富山・石川・福井）

■ 活動概要・経歴

北陸地域（富山、石川、福井）で共通データの取得とマーケティング手法を実践し、インバウンド観光を推進するため、金沢大学（先端観光科学研究所）を代表とし、産学官連携のコンソーシアムを令和6年7月に発足しました。データ収集・活用を効果的に進め、成果を地域全体で共有することで、富裕層を含むインバウンド旅行者の周遊促進、金沢から地域展開を図り、滞在時間や消費額の向上を目指します。事業はデータ収集・把握、見える化、活用環境整備の3段階で取り組みます。

2.地域の魅力・特徴

2.地域の魅力・特徴

1.富山地域

地域の魅力、特徴を示します。

魅力

立山連峰や黒部峡谷等の大自然が織りなす絶景が魅力。海産物、特にホタルイカや白エビの新鮮な食材が豊富で、温泉地も多く、リフレッシュできるスポットが満載です。

特徴

・延べ宿泊者数：日本人317,110人泊／外国人15,890人泊（2024年9月）

出典：観光庁 宿泊旅行統計調査2024年9月・第2次速報

富山県は北アルプスに抱かれた美しい自然と、海産物に恵まれた地域です。立山連峰の雄大な景観や黒部峡谷、黒部ダム等の自然観光地が豊富。海沿いでは新鮮な魚介類が味わえ、温泉地も点在しています。

- 1.立山連峰と黒部峡谷：登山や観光列車が楽しめる大自然。
- 2.新鮮な海産物：ホタルイカや白エビが特産で、美味しい海の幸を堪能。
- 3.温泉地：宇奈月温泉や砺波温泉等、リラックスできる温泉地が多い。

取組地域

- ①黒部・宇奈月
- ②立山
- ③富山
- ④高岡・氷見・射水
- ⑤砺波・五箇山



2.地域の魅力・特徴

2.石川地域

地域の魅力、特徴を示します。

魅力

歴史と現代が融合した金沢市の兼六園や伝統工芸、美食、温泉地等が豊富に揃うことです。また、美しい海岸線や加賀温泉郷も観光スポットとして人気です。

特徴

・延べ宿泊者数：日本人735,840人泊／外国人163,010人泊（2024年9月）

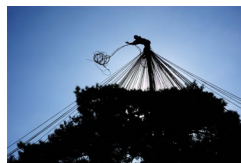
出典：観光庁 宿泊旅行統計調査2024年9月・第2次速報

石川県は金沢市を中心に歴史と現代が調和する地域で、特に金沢の古い町並みや伝統的な文化が魅力です。また、加賀温泉郷や輪島の朝市も観光資源として重要です。

- 1.金沢市の観光名所：兼六園や21世紀美術館等、文化と自然が融合。
- 2.輪島の朝市：新鮮な海産物や地元の工芸品が並び、地域の活気を感じられる。
- 3.加賀温泉郷：8つの温泉地が点在し、歴史ある温泉地で癒しの時間を提供。

取組地域

- ①能登
- ②金沢
- ③加賀



2.地域の魅力・特徴

3.福井地域

地域の魅力、特徴を示します。

魅力

歴史ある名所と自然豊かな景観が魅力の地域で、恐竜化石が発掘されました場所でもあります。永平寺等の禅宗文化が根付いており、観光とともに非日常時間が過ごせることが魅力です。

特徴

・延べ宿泊者数：日本人280,280人泊／外国人4,880人泊（2024年9月）

出典：観光庁 宿泊旅行統計調査2024年9月・第2次速報

海と山が織りなす美しい自然景観と、観光地が融合した地域で、恐竜化石発見の地として知られ、福井県立恐竜博物館が有名です。また、永平寺に代表される禅宗文化も特徴的です。

1.恐竜博物館：世界一の恐竜化石展示があり、学びながら楽しめる。

2.風光明媚な海岸線：海水浴や釣り、地元の海産物が堪能できる。

3.禅宗の聖地:禅の精神が息づく歴史的な寺院で、心を癒す場所。

取組地域

①永平寺・奥越

②あわら・坂井

③福井

④丹南

⑤若狭路



3.地域が目指す姿

3.地域が目指す姿

1.中長期・実証事業期間の目的

地域の現状及び課題、中長期的に目指す姿や実証事業の目的を示します。

現状及び課題

現状：北陸3県で個々の観光データ収集・オープン化を推進しているが、インバウンドの実態把握が不十分、北陸3県一体のデータが不足しているなどの課題が浮かび上がりました。具体的には以下のとおりです。

（１）インバウンドの移動・消費に係る実態把握が不十分（２）北陸3県での一体的な観光振興に向けた基盤構築が必要（３）データを活用した官民での社会実装や人材育成が必要（４）能登半島地震からの復興が急務

実証事業の目的

これらの課題を解決するために、北陸地域（富山県、石川県及び福井県）において共通したデータの取得及びマーケティング手法の検討・実践を行うことを通じ、旅行者の滞在時間や消費額の向上等、北陸地域で一体となったインバウンド観光の振興を促します。

中長期的に 目指す姿

本事業を達成することで、インバウンド観光を含めた以下のような観光産業全体の底上げや活性化につなげます。

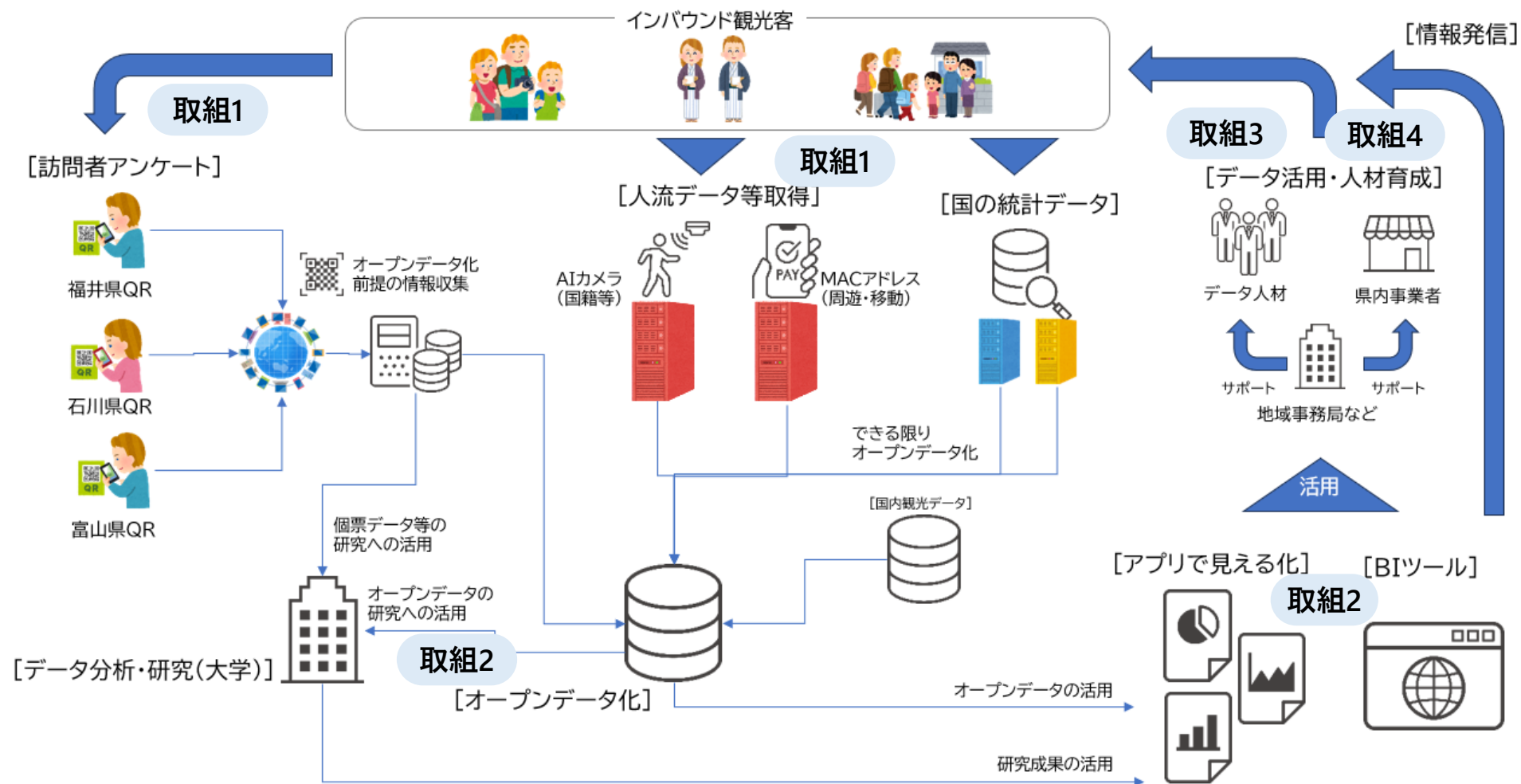
- ・周遊観光の振興による滞在日数の増加、宿泊客数の増加→経済効果の拡大
- ・EBPMに基づく、効果的な行政施策や事業コンテンツ組成の推進
- ・北陸3県の観光振興を一元的に担う北陸DMOの設立(データ回りも一元化)
- ・北陸以外の地域とのデータ取得・活用等での連携→広域観光の促進
(北陸新幹線沿線→長野県／高速道路ネットワーク→中京地方)

4.実証事業

4.実証事業

1.全体像

地域の目指す姿に向けて取り組む実証事業の全体像を示します。



4.実証事業

2.目標設定・取組内容

実証事業のゴールと目標値、実証事業の内容・概要・目標を設定します。

KGI

ゴール 北陸 3 県の事業者や行政等によるデータを活用した観光振興の基盤を構築する

目標値 北陸観光データポータル（TIF DATA）ユニークユーザー数 1000UU（累計）

取組

概要

目標

頁

取組1

インバウンド観光データの網羅的な収集・把握

北陸 3 県のインバウンド観光データを共通フォーマットで調査し、一元的に把握・分析

・MACアドレス関連情報による
動態データ取得(50か所以上)
・QRアンケートの有効回答数
(10,000以上)

P.14

取組2

KPI

オープンデータ化、見える化、
BIツール化等の推進

本事業のインバウンド関連データをオープンデータ化し、事業者や行政が協働
利用できるよう可視化

データセット数（4つ以上）

P.15

取組3

データの社会実装及び必要な環境の整備

取組1・2の成果を活用し、北陸三県での観光振興・インバウンド対策を強化
する具体的取組を生み出す

合意形成のための
協議・会議を月1回以上実施

P.16

取組4

データリテラシーの高い人材の育成

本実証事業で取得したデータを活用し、
勉強会やハッカソンを開催

データ活用に参画した事業者数
(3県で20以上)

P.17

4.実証事業

2.目標設定・取組内容

取組1.インバウンド観光データの網羅的な収集・把握

現状及び課題と課題解決に向けた取組内容を示します。

現状・これまでの取組

北陸3県では、エリアで一体となった観光振興が必要との共通認識に立ち、産学官のそれぞれの立場から以下の取組を進めてきました。

- ・各県で独自にデータを収集・解析（県内宿泊施設利用数等）
- ・観光庁等の既存統計データの活用
- ・北陸3県で、国内向け旅行者へのアンケートを実施
- ・KLA等のモバイル情報を活用した動態把握データの利用

明らかになった課題

北陸3県エリア一体となった観光振興を具体的に検討し始めると、たとえば、①3県共通のインバウンド向けに設計したアンケートの未実施②インバウンドに特化した動態把握が未実施でトリップチェーンの確認が出来ていない、③各県におけるデータの種類や量等にバラつきがある等、3県共通での観光マーケティングには不十分なデータ基盤であることが課題としてあらためて明らかになりました。

取組内容

上記課題を解決するために、北陸3県におけるインバウンドの観光データ（移動・消費等）について、共通フォーマットにて調査を行い、一元的に把握・分析することにしました。

取組内容:北陸地域の主要ポイントを選定し、以下の調査を実施します。

1. 旅行者が保有するスマートフォンのMACアドレス関連情報を捕捉できる機器を配置し、観光・周遊の動態を網羅的に把握。
2. 3県共通のフォーマットでのQRアンケートを展開し、移動や消費に係る情報を収集。
3. AIカメラを設置し、人流等を面的に把握。
4. 上記データの解析。

ターゲット:北陸3県を訪れる、インバウンド旅行者。

観測指標:MACアドレス関連情報による動態データ取得（50か所以上）、QRアンケートの有効回答数（10,000以上）

MACアドレス取得数、人流計測数、アンケート収集数

4.実証事業

2.目標設定・取組内容

取組2.オープンデータ化、可視化、BIツール化等の推進

現状及び課題と課題解決に向けた取組内容を示します。

現状・これまでの取組

北陸3県では、観光DX推進、特にデータの収集・オープン化を通じた利活用の促進について、その必要性から以下のサイトを立ち上げるなど、各県において検討や実践を行ってきました。

- ・ 富山県：「TOYTOS」ツーリズム統計基盤
- ・ 石川県：「Milli」 石川県観光データ分析プラットフォーム
- ・ 福井県：「FTAS」福井県観光データ分析システム

明らかになった課題

これまでの取組では、3県で共通化されたデータセットが無く、県単位での活用にとどまり、統一されたデータプラットフォームも不在でした。

また、インバウンド観光データが不足しており、可視化等の活用が不十分でした。

このように、各県におけるデータの種類や量等にバラつきがあるなど、3県共通でのマーケティングには不十分であることが明らかになりました。

取組内容

上記、課題を解決するために、本事業での取得データを含めた、インバウンドの関連データについて、事業者や行政が協働して使えるようオープンデータ化（共有財産化）、可視化します。

取組内容：1. オープンデータ化

2. 可視化・BIツール化の検討と実装

3. 北陸観光DXポータル（TIF DATA）をリリースし、3県共通でのオープンデータを基にした取組の情報発信を行う

4. 研究への活用、産学官の特定の主体に偏らず、市民目線で情報発信できるシビックテックの特性を活かし、オープンデータを提供

ターゲット：北陸3県の事業者、行政担当者、シビックテック、大学、教育関係者

指標：データセット数（4つ以上）

4.実証事業

2.目標設定・取組内容

取組3.データの社会実装及び必要な環境の整備

現状及び課題と課題解決に向けた取組内容を示します。

現状・これまでの取組

北陸新幹線の延伸により、3県がこれまで以上に観光地として一体化できる社会環境が整ったなか、3県の各主体がそれぞれ以下の立場で観光振興に取り組んでいました。

自治体：観光政策の企画・実施

3県での協議会等の運営

DMO：自治体等と連携した観光振興の取組の推進

地銀等：事業者と連携した観光コンテンツの磨き上げ

明らかになった課題

これまでの取組から、さらに進んだ観光振興やインバウンド対策を議論し検討する過程で、3県の各主体が共通言語となるデータやインバウンドのデータの必要性があらためて認識されました。以下にあげられるような課題があらかになってきました。

- ・3県の各主体の連携や、官民連携の更なる強化（データを共通言語とすることで推進できる）
- ・インバンドデータが不足しているため取組が行えない

取組内容

上記課題を解決するため、〔取組1〕〔取組2〕の成果を活用し、北陸3県での一体的な観光振興・インバウンド対策の強化に向けた具体的な取組を生み出します。

取組内容：

1. WGを設置（県庁・DMO・地銀等）し、観光データの活用方策や必要なデータの種類等について議論し、仮説を構築
2. 本事業での取得データを分析し、インバウンド旅行者に係る北陸3県での共通ターゲットの検討や、事業者による観光コンテンツの磨き上げ等に繋げる
3. 本事業に参加する3県の産学官が連携して、次年度以降に行う取組（プロモーション、周遊ルート作成、コンテンツ形成等）を創出

ターゲット：北陸3県の事業者、行政担当者、シビックテック、大学、教育関係者

観測指標：合意形成のための協議、会議の実施（月1回以上）

4.実証事業

2.目標設定・取組内容

取組4.データリテラシーの高い人材の育成

現状及び課題と課題解決に向けた取組内容を示します。

現状・これまでの取組

3県それぞれでデータの利活用に向けたノウハウの提供等が実施されてきました。

福井県：FTAS活用のための勉強会（主に事業者向け）
高校生を対象としたハッカソン

石川県：いしかわ観光データ会議
（観光協会や市町担当者等との課題共有）

富山県：観光事業者向けの観光データ提供



明らかになった課題

これまでの取組内容を確認したところ、インバウンド観光データの入手後の利活用にむけた取り組みが不足し、3県全体の視野を持ってデータに取り組む座組と人材が不足している事があらためて課題として認識されました。

質・量の両面におけるデータ人材の慢性的な不足状態
（特に将来を担う高校生・大学生の育成強化が必要）
・インバウンドの観光データの活用ノウハウの提供不足
（そもそもデータ自体が不足しているため）

取組内容

上記課題を解決するため、本実証事業を通じて取得したデータを活用し、勉強会やハッカソンイベントを行い、人材育成に取り組めます。

取組内容： 1. 本事業で取得したデータ等を活用した3県共通の勉強会を開催
2. 大学との連携による学生対象のデータに基づくアイデアソンの開催（高校生・高専生も参加可）

ターゲット： 北陸3県の観光事業者、行政担当者、大学生、高校生

観測指標： データ活用の取組に参画した事業者数（3県で20以上）

4.実証事業

3.各取組の詳細

取組1.インバウンド観光データの網羅的な収集・把握

目的：北陸地域を訪れる外国人旅行者、特に富裕層の動態や消費行動を「移動（足）」と「消費（サイフ）」を軸に網羅的かつ多面的に把握し、観光戦略やマーケティング施策の高度化に資することを目的とします。

アプローチ：インバウンドの特性に着目し、学術的要素を含めた調査方法により、従来把握が困難だった行動や消費データを収集します。具体的なデータ収集手法は次の通り：①WiFiパケットセンサの設置、②QRコードアンケートによる行動データ取得、③AIカメラによる訪問者属性解析

①,②,③で得られたデータを分析し、移動範囲、消費傾向、旅行目的、満足度を多角的に分析。これらの情報をもとに、北陸地域の観光産業の戦略や改善点を導き出すことを目的として実施しました。

①WiFiパケットセンサ（M5カプセル）の設置

地域内で広域に動き回るインバウンド旅行者の実態を把握する手段として、金沢大学の藤生准教授・森崎助教の研究室で取り組んでいる研究手法を活用し、Wi-Fiパケットセンシングに基づく人流計測を行います。そのことにより、外国人が保有するスマートフォンを推計し、どこを訪問し、どのように移動しているかというデータを把握することができます。

- 主要観光施設等に機器を設置し、旅行者の秘匿化された携帯電話識別情報を取得。
- インバウンドが利用していると推測される北陸新幹線の各駅などの交通結節点にも重点配置。
- 得られたデータを基に地域内での移動や周遊行動を把握。

4.実証事業

3.各取組の詳細

取組1.インバウンド観光データの網羅的な収集・把握（①WiFiパケットセンサ（M5カプセル）の設置）

■ システム開発

● コンセプト・機能概要

Wi-Fiパケットセンシングに基づく人流計測を実施。

・非接触センシング機器(M5カプセル)にプログラムを組み込み、半径15m以内を通過した人の秘匿化された携帯電話識別情報を取得する方法を用います。

・北陸3県79か所に設置し、9月下旬から12月下旬にかけてデータを計測します。

・金沢大学・森崎助教が設置した全非接触センシング機器のデータをまとめ、交通計画学で確立されている手法を用いてインバウンド旅行者を推計します。

● システム構成



金沢大学の藤生・森崎研究室にて分析、データ成形

	awara	eiheiji	fukui	kaga	kanazawa	kurobe	noto	takaoka	tannan	tateyama	tonami	toyama	wakasa
awara		11	16	17	46	3	3	8	5	0	2	12	11
eiheiji	26		30	48	86	5	2	22	21	0	2	17	18
fukui	11	22		33	212	1	7	36	17	0	7	38	19
kaga	17	37	38		360	11	36	73	35	3	2	89	34
kanazawa	40	84	232	390		58	37	351	133	16	46	502	100
kurobe	0	4	6	14	61		0	16	3	2	0	26	8
noto	1	3	7	29	43	3		6	3	1	0	10	4
takaoka	15	15	24	69	343	17	9		14	5	14	104	21
tannan	8	19	9	34	173	4	7	35		1	7	30	16
tateyama	0	1	1	3	23	0	0	7	1		0	10	1
tonami	1	0	2	8	57	0	1	10	9	0		10	3
toyama	18	23	47	108	554	31	12	142	18	15	7		38
wakasa	9	14	12	36	92	6	4	23	15	2	1	31	

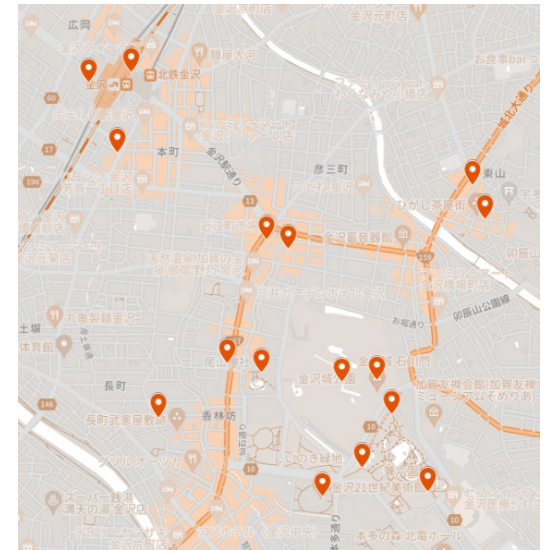
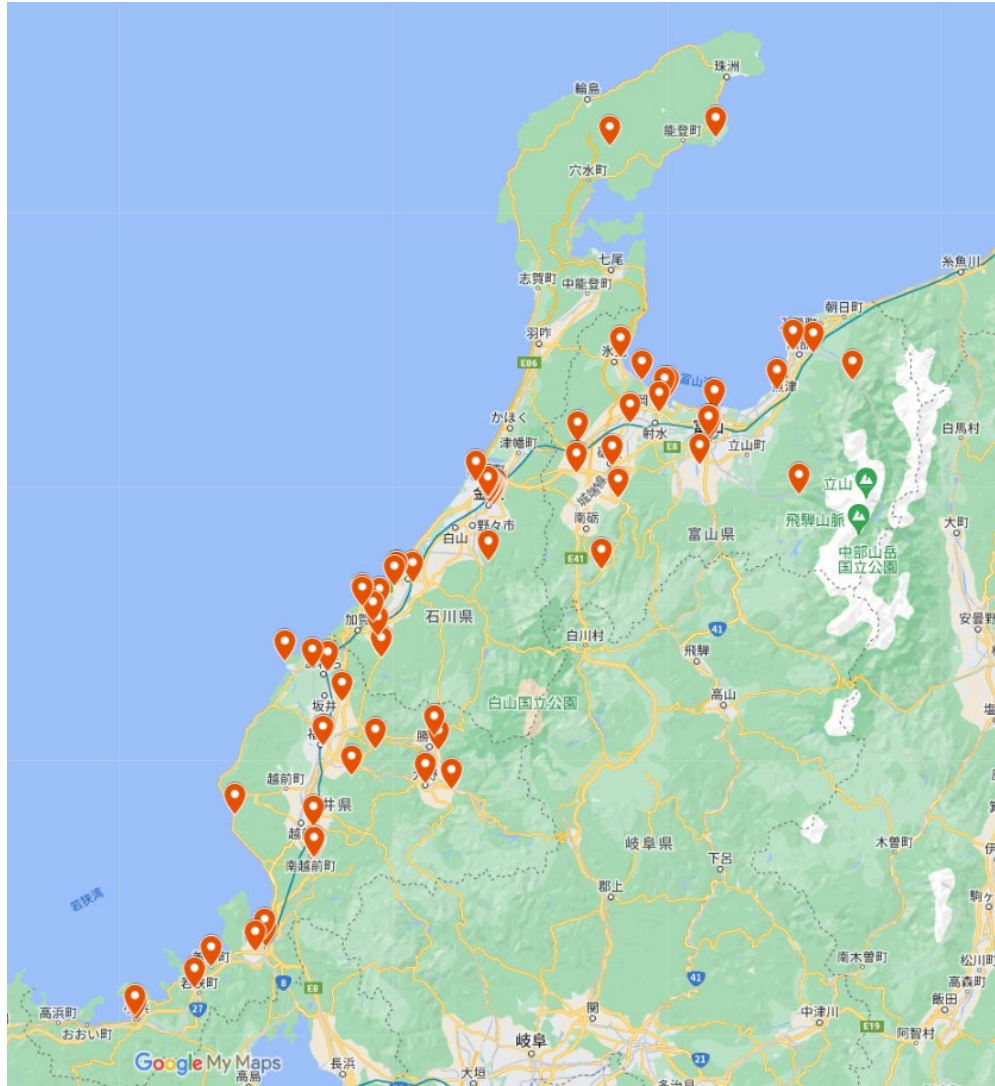
図：エリア別流動量の集計結果の一例（OD表）
縦軸は出発エリア、横軸は到着エリアを表し、
エリア間の流動量が把握できます。

4.実証事業

3.各取組の詳細

取組1.インバウンド観光データの網羅的な収集・把握（①WiFiパケットセンサ（M5カプセル）の設置）

WiFiパケットセンサ（M5カプセル）の設置箇所（79箇所）



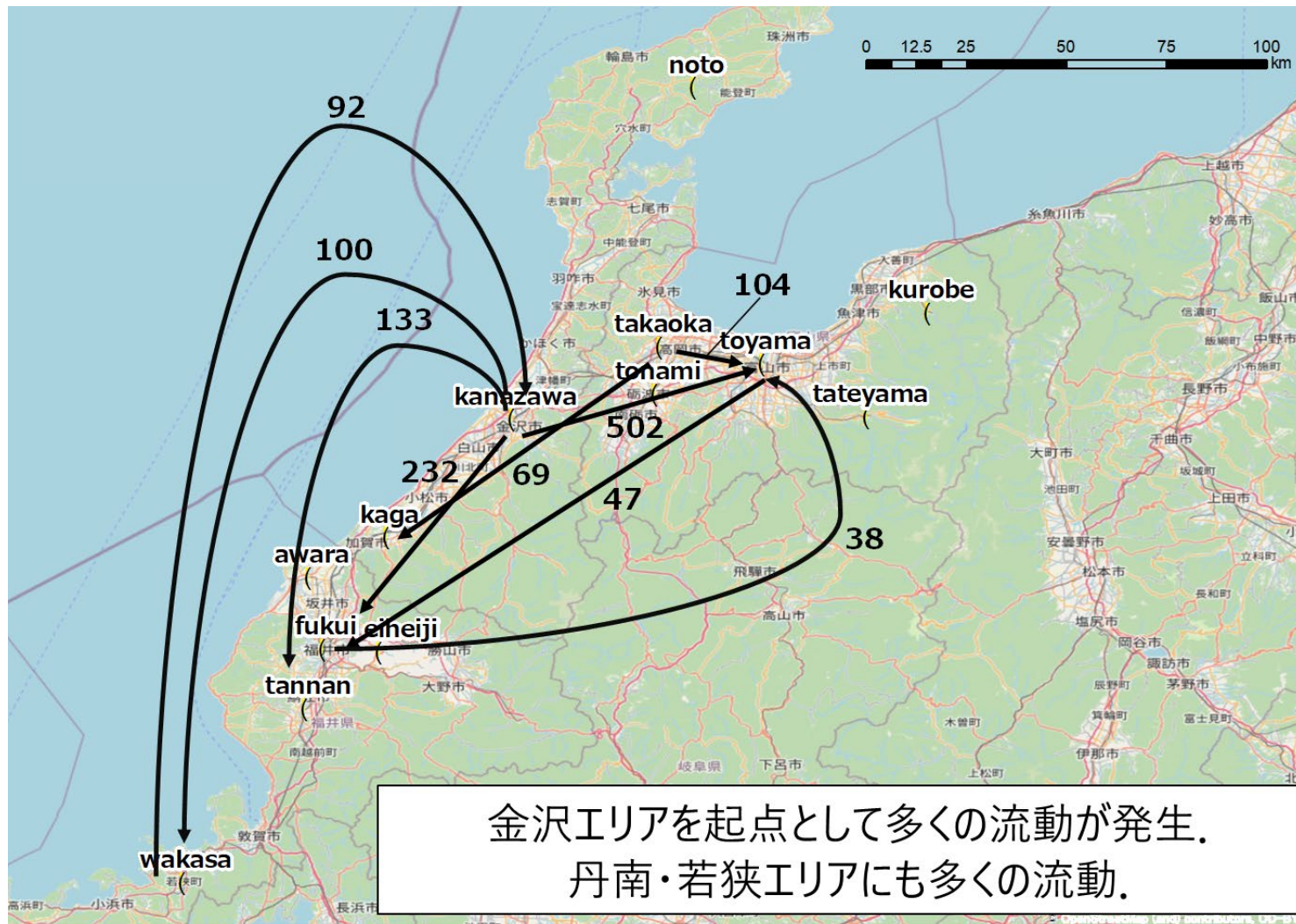
金沢市中心部

4.実証事業

3.各取組の詳細

取組1.インバウンド観光データの網羅的な収集・把握

■ まとめ（M5カプセルでの成果例 ①全期間流動量の見える化）

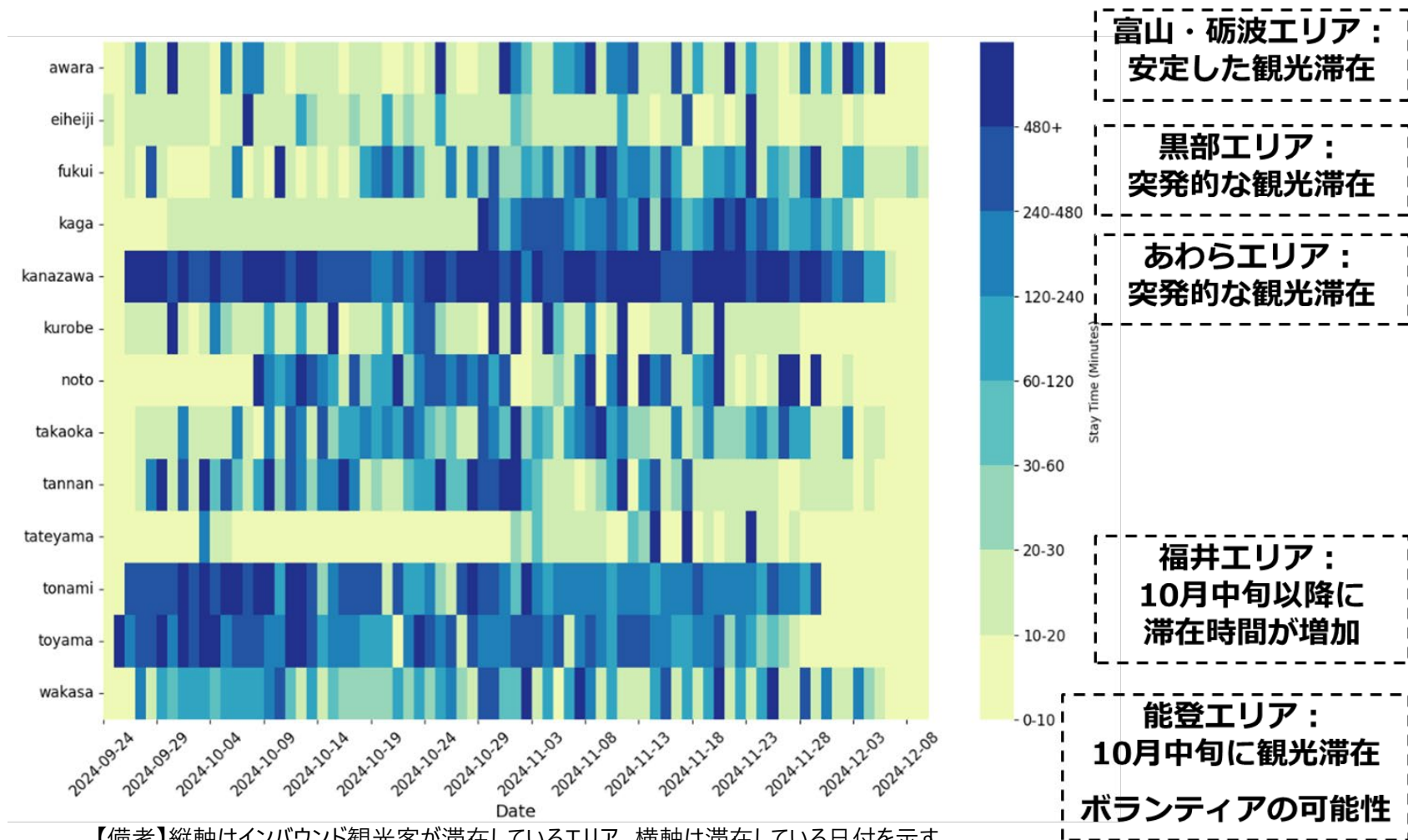


4.実証事業

3.各取組の詳細

取組1.インバウンド観光データの網羅的な収集・把握

■ まとめ（M5カプセルでの成果例 ②時間帯別・エリア内の平均滞在時間）



【備考】縦軸はインバウンド観光客が滞在しているエリア、横軸は滞在している日付を示す。
色が濃いほど滞在時間が長い。

4.実証事業

3.各取組の詳細

取組1.インバウンド観光データの網羅的な収集・把握

②QRコードアンケートによる行動データ取得

これまで北陸3県で個別に行ってきた、QRコードを活用した国内旅行者向けのアンケートを改良し、インバウンド向けに多言語化した上で、共通の設問によるアンケートを北陸地域内全体で実施することで、インバウンドの移動や消費に関する情報を収集します。設問としては、交通手段に関する設問により、移動動態を把握するとともに、年収や資産、北陸での消費額等の設問により、経済活動の実態についても把握します。また、回収率の向上を図るべく、適切な形でのインセンティブを付与します。

- 観光施設や宿泊施設にQRコードアンケートを設置し、インバウンド向けアンケートを展開。
- 基本情報、旅行の動機と目的、予算と消費行動、情報収集と手段、交通手段、滞在の満足度等、インバウンド特有の行動特性を把握。
- データの統合解析。

4.実証事業

3.各取組の詳細

取組1.インバウンド観光データの網羅的な収集・把握

QRコードアンケートの設問内容

設問	段階ごとの分類	設問のカテゴリー	設問内容
1	①基本情報	年齢	あなたの生まれた年を教えてください。
2	①基本情報	性別	あなたの性別を教えてください。
3	①基本情報	国籍（出身国）	あなたの国籍・地域を教えてください。
4	①基本情報	世帯年収	あなたの世帯年収を教えてください。
5	②今回の旅行の全工程について	日本への旅行目的	今回の主な訪日目的は何ですか？
6	②今回の旅行の全工程について	同行者	今回の訪日はどなたといらっしゃいましたか？
7	②今回の旅行の全工程について	日本での滞在日数	今回、日本には何日滞在しますか。
8	②今回の旅行の全工程について	日本での滞在予算	今回の旅行の旅の総予算はいくらぐらいでしょうか？
9	②今回の旅行の全工程について	日本での滞在予算	今回の旅行の宿泊予算はいくらぐらいでしょうか？
10	②今回の旅行の全工程について	情報収集手段	日本の旅行情報を得るうえで、出発前に役立ったと感じたものを選んでください。
11	②今回の旅行の全工程について	訪問回数	今までの訪日回数は？（今回の訪日を含む）
12	③ご訪問された場所について	目的	今回、今いらっしゃる【県名】を訪問した目的を教えてください。
13	③ご訪問された場所について	目的	今回、【施設名】を訪問した理由を教えてください。
14	③ご訪問された場所について	満足度	【施設名】を訪問した満足度はいかがでしたか？
15	③ご訪問された場所について	満足度	【施設名】の満足度とその理由について、ご自由にご意見をお聞かせください。
16	③ご訪問された場所について	消費額	今回の【施設名】では、一人あたりどのぐらいお金を消費しましたか？
17	③ご訪問された場所について	交通手段	今回の【施設名】への交通手段は何ですか？
18	③ご訪問された場所について	情報収集手段	【施設名】をどうやって知りましたか。 旅行先を検討された際、情報収集に使用した媒体および決め手を教えてください。
19	③ご訪問された場所について	推奨意向（NPS）	【施設名】へのお出かけを、どのくらい家族や友人に薦めたいと思いますか。 0（全く薦めたくない）～10（ぜひ薦めたい）でお答え下さい。
20	③ご訪問された場所について	推奨項目	今回の旅行またはお出かけにおいて、特に人に薦めたいと感じたものとその理由について、具体的に教えてください。

4.実証事業

3.各取組の詳細

取組1.インバウンド観光データの網羅的な収集・把握（②QRコードアンケートによる行動データ取得）

■ システム開発

● コンセプト・機能概要

3県（富山県・石川県・福井県）内の観光施設159箇所以上に設置した告知物から、外国人旅行者がスマートフォンのカメラでQRコードを読み取ります。言語を選択し、キャンペーンの説明画面で「回答する」ボタンを押し次のページへ遷移します。

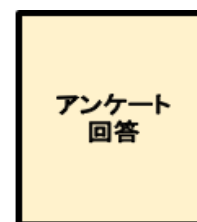
ログイン画面が表示の「初めての方はこちら」ボタンから仮会員登録（メールアドレス入力を入力し「確認する」ボタンを押下）を行います。

仮登録メール本文のURLからアンケート画面に遷移しアンケートを回答します。（※2箇所目以降は、登録したメールアドレスでログインし、アンケートに回答。）

● システム構成



QRコード
読み取り



※URL : <https://welcome-hokuriku.jp/>

4.実証事業

3.各取組の詳細

取組1.インバウンド観光データの網羅的な収集・把握（②QRコードアンケートによる行動データ取得）

■ システム開発

- UI・UX



言語選択

英語
繁体字
韓国語

規約

ユーザ
ログイン
※新規登録

アンケート
回答

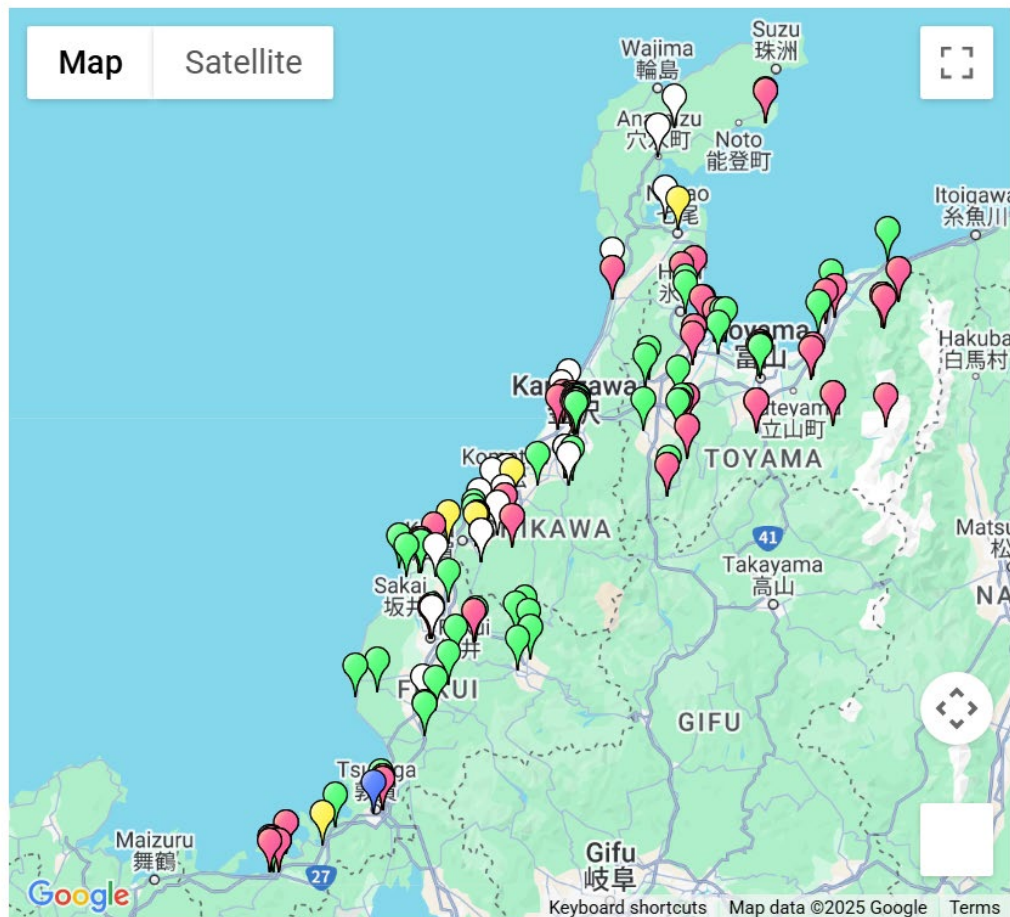
4.実証事業

3.各取組の詳細

取組1.インバウンド観光データの網羅的な収集・把握（②QRコードアンケートによる行動データ取得）

QRコードアンケートの設置施設（159箇所）

📍:Accommodation 📍:Restaurant 📍:Experience/sightseeing facilities 📍:Specialty products/retail stores
others



4.実証事業

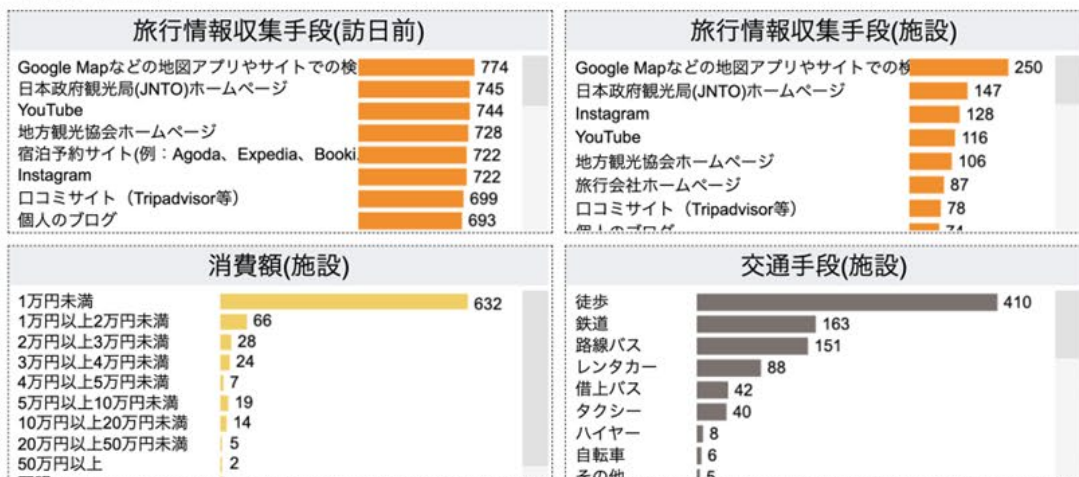
3.各取組の詳細

取組1.インバウンド観光データの網羅的な収集・把握

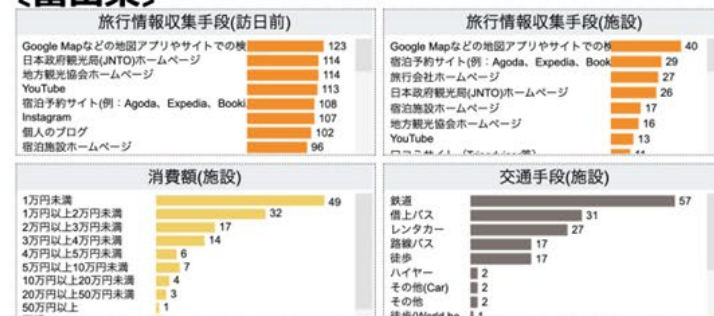
■ まとめ（アンケート調査での成果例 ①来訪者の行動分析）

来訪者の行動 情報収集手段・消費額・交通手段

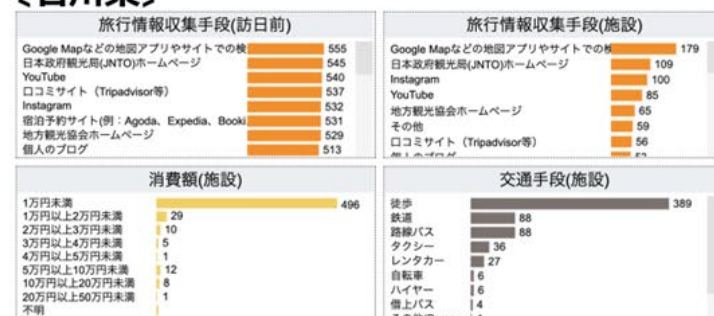
〔北陸3県〕



〔富山県〕



〔石川県〕



〔福井県〕



- ・ 富山県 鉄道
- ・ 石川県 徒歩
- ・ 福井県 路線バス

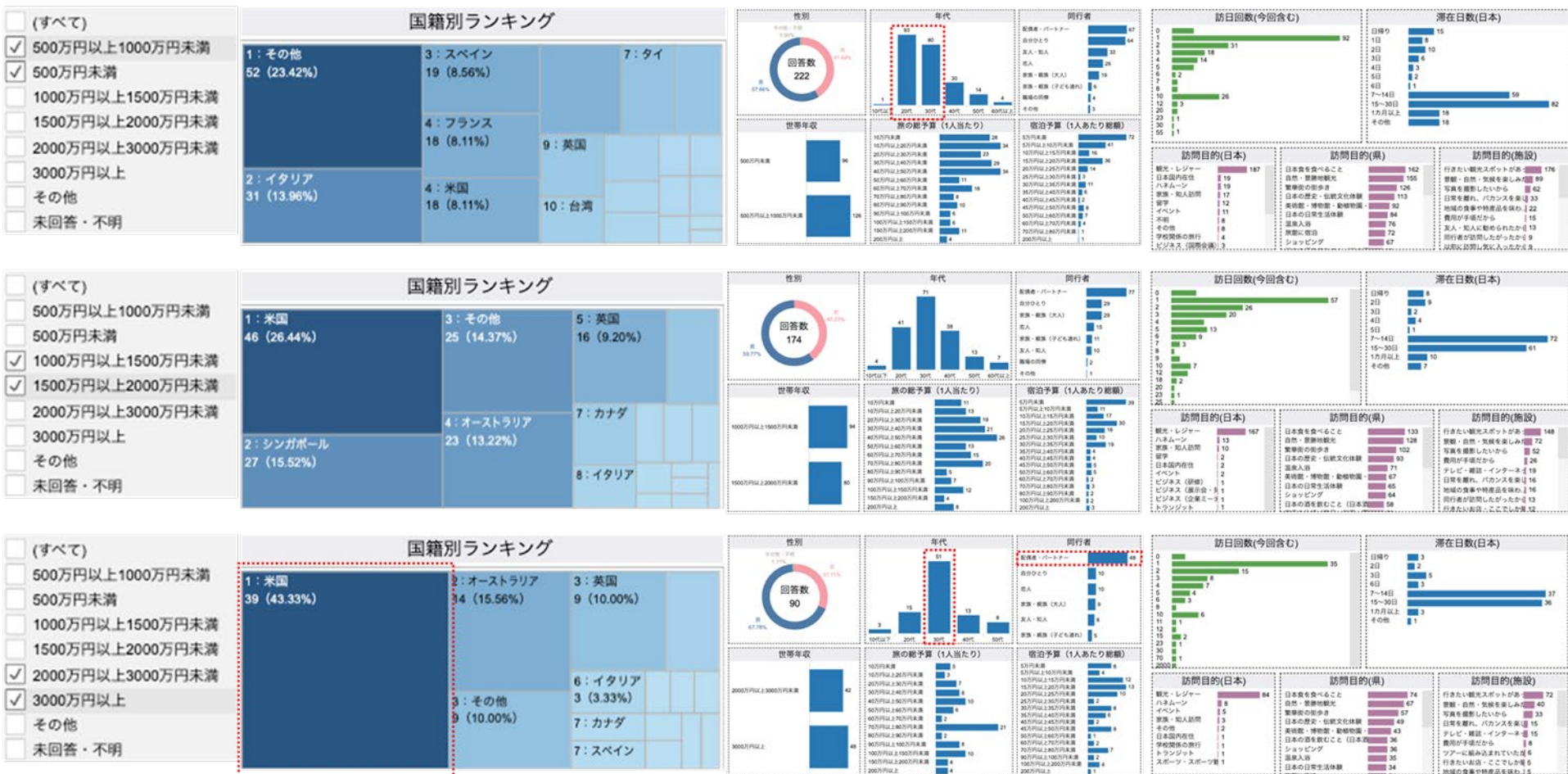
4.実証事業

3.各取組の詳細

取組1.インバウンド観光データの網羅的な収集・把握

■ まとめ（アンケート調査での成果例 ②世帯年収別の国籍等）

世帯年収別



※台湾の人たちの世帯年収の記入の殆どが0円などで、その他に分類



世帯年収が500万円未満は“20代、30代”が中心、2,000万円以上では国籍は“アメリカ”が、同行者は“配偶者・パートナー”が一番多い。このように、ターゲット層を絞り込む際の参考にすることができる。

4.実証事業

3.各取組の詳細

取組1.インバウンド観光データの網羅的な収集・把握

③AIカメラによる訪問者属性解析

インバウンドの国籍や出身地域（例えば東南アジア、ヨーロッパ、等）の情報についても把握することが望ましく、そのためにAIカメラを活用します。金沢大学の藤生准教授・森崎助教の研究室で取り組んでいる研究手法を活用し、観光案内所や主要な観光施設にAIカメラを設置し、訪問客の顔情報から出身地域（年齢、性別、属性（人種））をある程度の精度で推定できるよう、機械学習を繰り返させる中で認識レベルを向上させ、インバウンド旅行者の出身地の違いによる行動の違い等を分析します。

- 主要交通施設にAIカメラを設置。
- 訪問者の人種等のデータを推測・収集し、インバウンドの訪問傾向を把握。

4.実証事業

3.各取組の詳細

取組1.インバウンド観光データの網羅的な収集・把握（③AIカメラによる訪問者属性解析）

■ システム開発

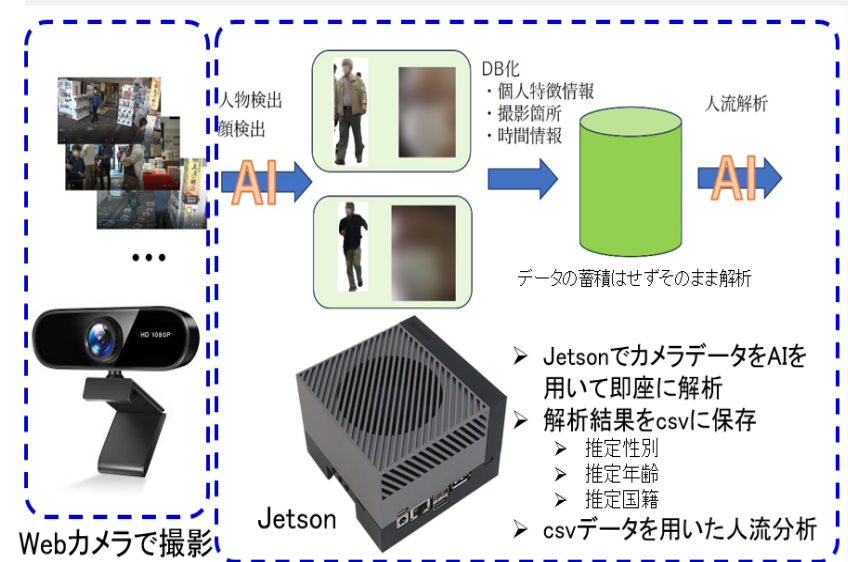
● コンセプト・機能概要

AIカメラを用いて北陸地域を訪問した旅行客の属性を取得するシステムを運用した計測を実施します。

AIカメラにより顔情報を検出しデータベースと照合し，AI解析を行うことで，推定年齢・推定性別・推定居住地等を推定します。

これらの推定には，顔推定・人物全体推定・顔・地域抽出アルゴリズム・判定システムを活用します。

● システム構成



AIカメラを用いた訪問者分析の例：ふくい観光案内所の分析結果

■ 日本人，外国人の推定分布

□ 欧米 < アジア < 日本人

■ 欧米

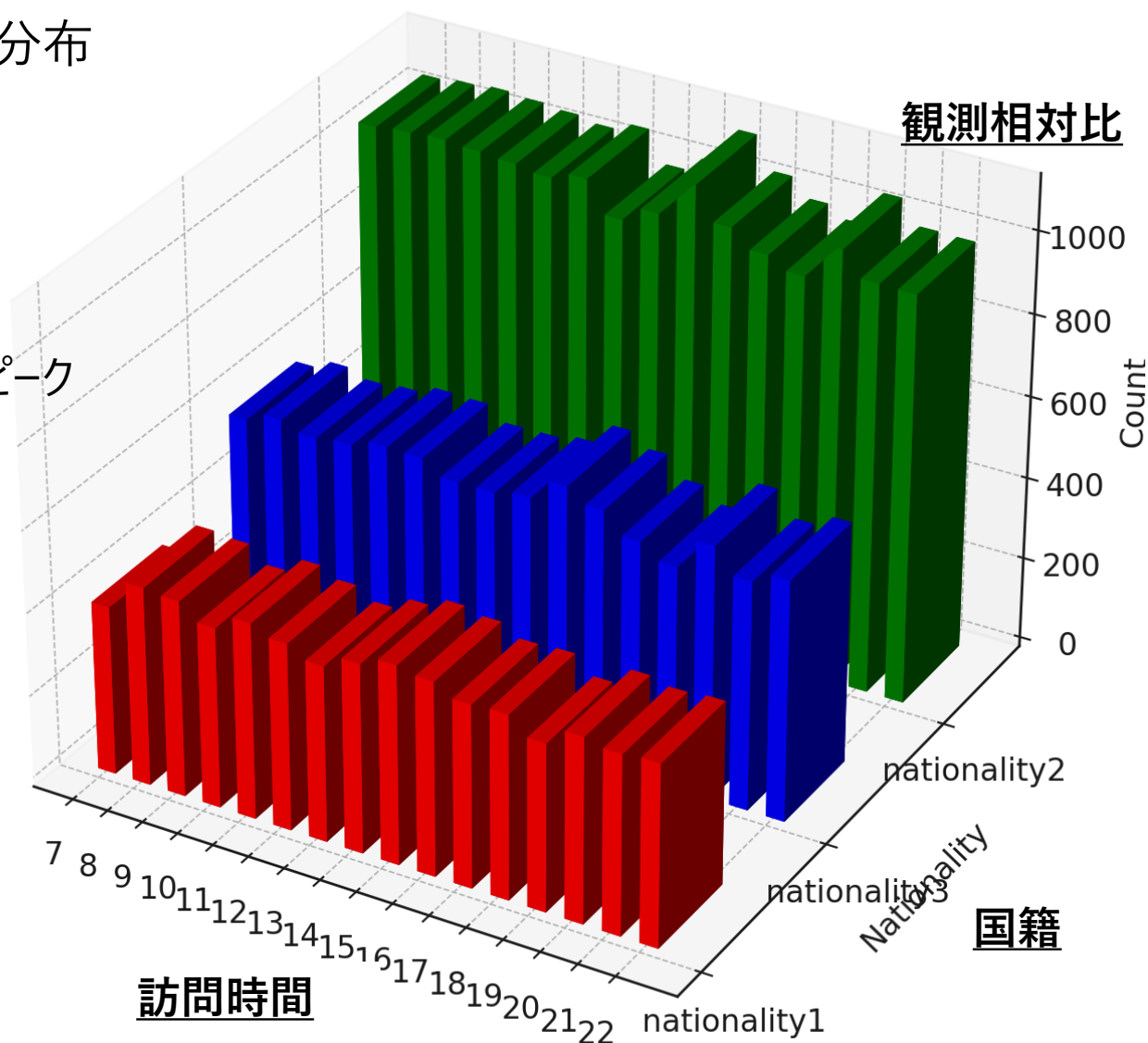
□ 朝（8～9時台）と
夕方（15時～17時）にピーク

■ アジア

□ 夕方に2つのピーク
□ 17時頃と20時頃

■ 日本人

□ 大きなピークは現れない
□ 13時頃，18時頃にピーク



4.実証事業

3.各取組の詳細

取組1.インバウンド観光データの網羅的な収集・把握

■ まとめ

・産官学連携や事業者への協力依頼・巻き込み等を通じ、北陸三県での共通のデータの取得体制を構築し、データ活用の機運を醸成できました。また、世界最先端の観光動態データの取得に成功し、北陸におけるインバウンドの周遊動態や来訪者の属性等について新しい知見を得ました。

■ 目標

- ・MACアドレス関連情報による動態データ取得(50か所以上)
- ・QRアンケートの有効回答数(10,000以上)

■ 結果

- ・MACアドレス関連情報による動態データ取得：79か所
- ・QRアンケートの有効回答数：840件

■ 結果の推移

観測指標	数値	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	最終実績
MACアドレス	50	0	0	50	50	50	50	-	50
実績	(該当月までの累計)	0	5	5	78	79	78	-	79
進捗率(%)	%	0%	10%	10%	156%	158%	158%	-	158%
観測指標	数値	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	最終実績
QRアンケートの有効回答数	10,000	0	0	3,000	6,000	9,000	10,000	10,000	10,000
実績	(該当月までの累計)	0	0	69	140	401	771	840	840
進捗率(%)	%	0%	0	0.7%	1.4%	4%	7%	8%	8%

4.実証事業

3.各取組の詳細

取組1.インバウンド観光データの網羅的な収集・把握

■ 注力した点・工夫した点

項目	主な活動	結果
事業者巻き込み	地方銀行（関連会社含む）である北陸銀行、CCイノベーション、ふくいヒトモノデザインを県事務局とし、ネットワークを活用して事業者の協力を得ました。	アンケート設置個所は3県で159箇所、M5Capsule設置個所は3県で79か所となり、広域での調査を行うことが可能となりました。
有効なデータ収集（アンケート回答促進）	武家屋敷や尾山神社等の協力をえて、外国人旅行者が多く集まる施設でチラシの配布を行いました。また、チラシ配布とともにノベルティ（石川県事務局からの紹介で、県内事業者から無償提供）を配布することで更なる促進につながりました。 アンケート促進にはコンソーシアムメンバーのマーケティング知識を活用し、広告展開（検索連動型広告、SNS広告等）やチラシ配布を効果的に実施。プル型・プッシュ型双方の施策を並行して行いました。	1日5件程度でした回答数がチラシ配布を行うことで10～20件に上昇した。また、ノベルティを渡すことで1日30件程度の回答を得られました。 そのほか、外国人旅行者とコミュニケーションを取る貴重な機会にもなり、アンケートを分析する際の補足情報として活用できました。

4.実証事業

3.各取組の詳細

取組1.インバウンド観光データの網羅的な収集・把握

■ 注力した点・工夫した点

項目	主な活動	結果
事業者の参画促進（M5カプセル）	M5カプセルの設置場所は各県庁にヒアリングを行い、インバウンドの来訪が見込める施設に設置しました。また、個人旅行者の移動がつかめていないことから、交通結節点にも拡大しました。その上で、各県事務局の地銀ネットワークを活用し、多くの施設の許諾を得るとともに、金沢大学の包括連携協定を通じて中日本高速道路株式会社の協力も得ました。	主要観光施設に54か所、交通結節点に25か所設置することができ、世界でも類を見ない広域観光の調査が可能となりました。
有効なデータ収集（M5カプセル）	M5カプセルとアンケート調査は、北陸3県に広く設置し、広域でデータ収集を行いました。M5カプセルの設置では機器の動作確認やデータ回収は頻繁に必要でしたが、事業者や県事務局の協力や大学院生の活躍により順調に進めることができました。	M5カプセルによるサンプリング分析により、北陸三県を移動する旅行者の動態を確認できました。森崎助教の解析で、金沢～若狭間のような離れた地域間の往来や、金沢を起点とする旅行パターン、一方で丹南・永平寺のみを訪問するカテゴリーが存在するなどが明らかになり、大きな成果が得られました。
有効なデータ収集（AIカメラ）	AIカメラの運用については顔情報を取り扱うため個人情報保護法や肖像権に十分配慮を行う必要があります。そのため大学の法務部門及び顧問弁護士に相談を行いました。	総務省・経済産業省が取りまとめた「カメラ画像利活用ガイドラインver3.0」に沿って、目的の告知を行うなどの対応を行いました。その結果、問題なく調終えました。

4.実証事業

3.各取組の詳細

取組2.オープンデータ化、見える化、 BIツール化等の推進

■ システム開発（Githubを通じたオープンデータ化）

● コンセプト・機能概要

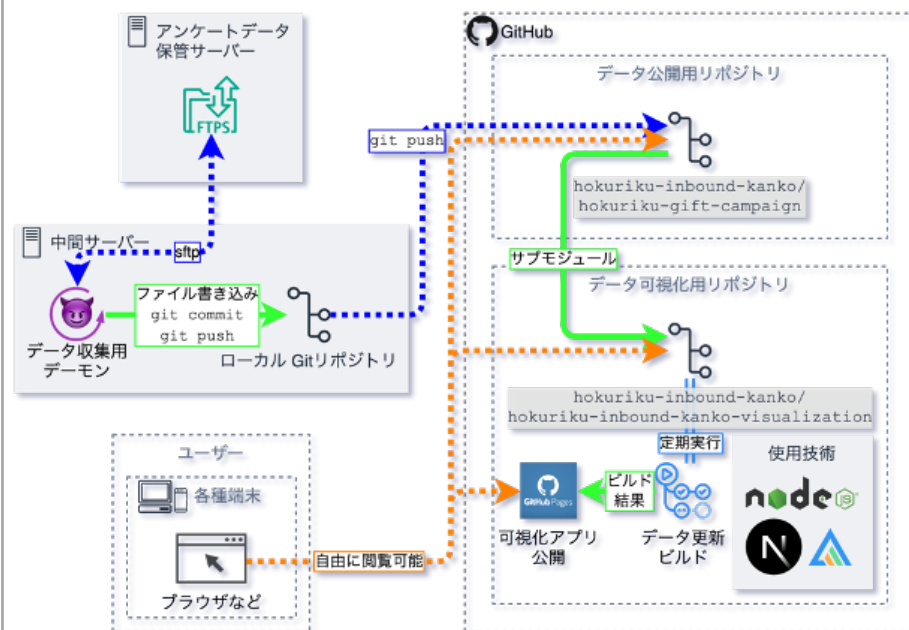
インバウンド旅行者向けに実施されているアンケートデータをGitHubを通じてオープンデータ化を行います。

日々更新されるデータを人の手を介さず収集・公開できる構成とします。

また、このデータを可視化するWebアプリケーションを開発し、GitHub Pagesを用いて公開します。

WebアプリケーションにはNext.jsを始めとした**Webサイトの表示を速くし、検索エンジンにも強く、開発もしやすい**最新の技術を利用し、閲覧者にわかりやすいデザインで軽量に動作するよう開発します。

● システム構成



※URL :

1. 可視化Webアプリケーション: <https://hokuriku-inbound-kanko.github.io/hokuriku-inbound-kanko-visualization/>
2. データ公開用リポジトリ: <https://github.com/hokuriku-inbound-kanko/hokuriku-gift-campaign>
3. データ可視化用リポジトリ: <https://github.com/hokuriku-inbound-kanko/hokuriku-inbound-kanko-visualization>



4.実証事業

3.各取組の詳細

取組2.オープンデータ化、見える化、 BIツール化等の推進

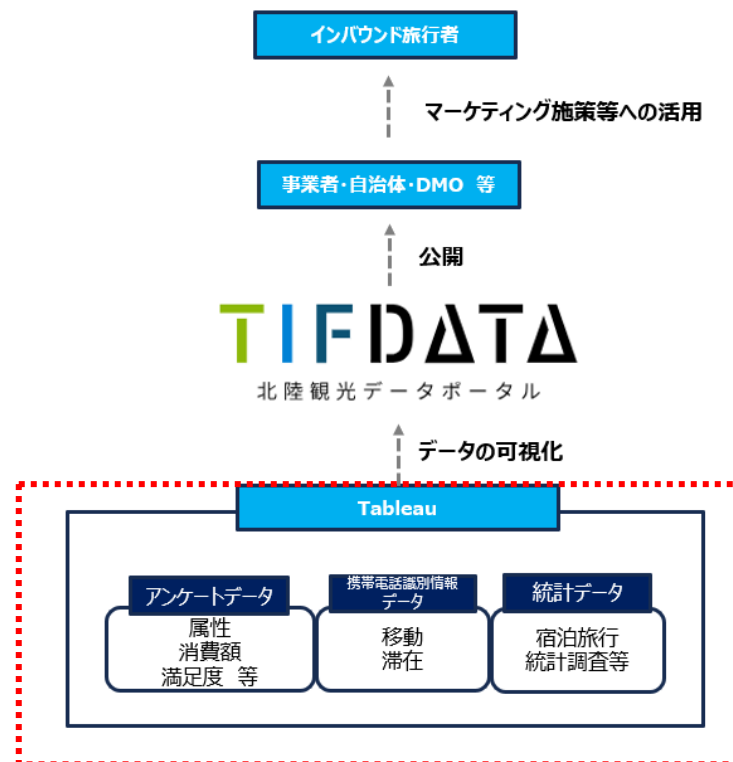
■ システム開発（Tableauによる見える化）

● コンセプト・機能概要

本事業で収集したアンケート（属性、消費額、満足度等）や携帯電話識別情報（移動・滞在）および国の統計データ（宿泊旅行統計調査等）について可視化するため、Tableauを用いてダッシュボードを作成します。

作成したダッシュボードを「TIFDATA北陸観光DMP」にて公開する。北陸3県の事業者・行政・DMOをはじめとする関係者が、インバウンド旅行者向けのマーケティング施策の検討等に活用いただくことを想定しています。

● システム構成



※URL： <https://tifdata.jp/>

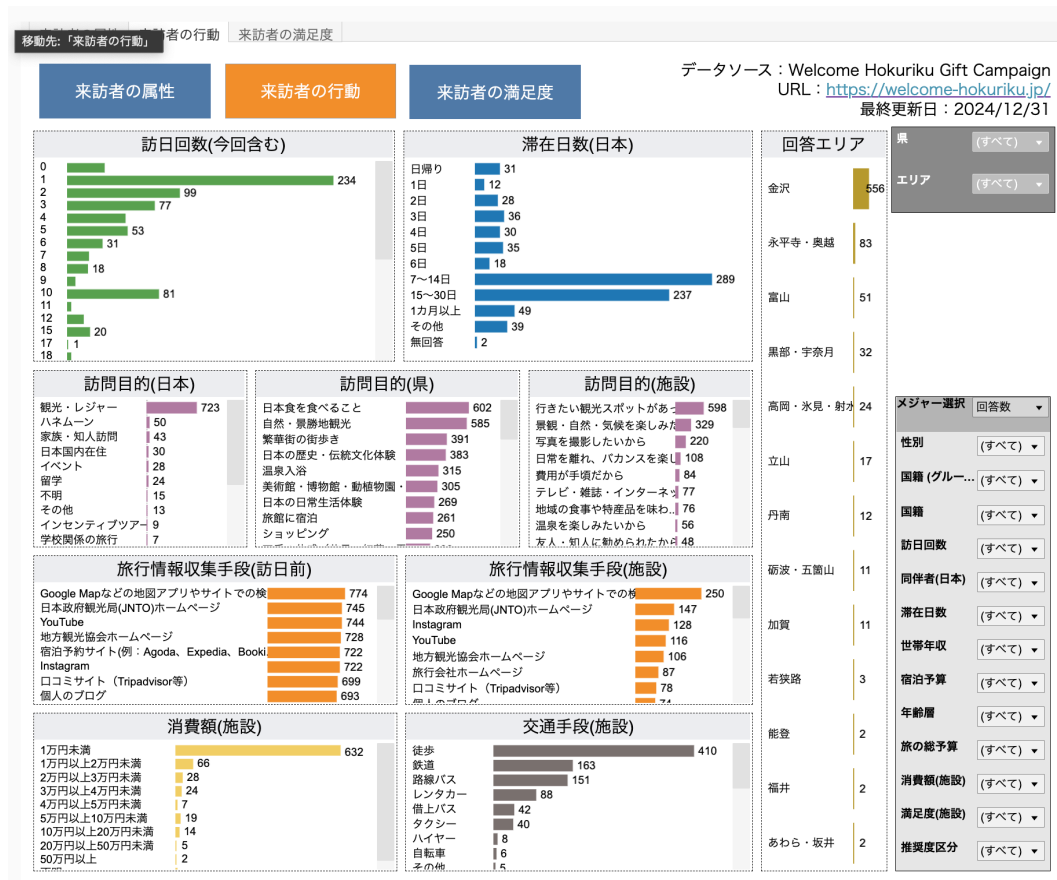
4.実証事業

3.各取組の詳細

取組2.オープンデータ化、見える化、BIツール化等の推進

■ システム開発（Tableauによる見える化）

● UI・UX



県や地域や属性を、
絞り込みや選択可能

4.実証事業

3.各取組の詳細

取組2.オープンデータ化、見える化、 BIツール化等の推進

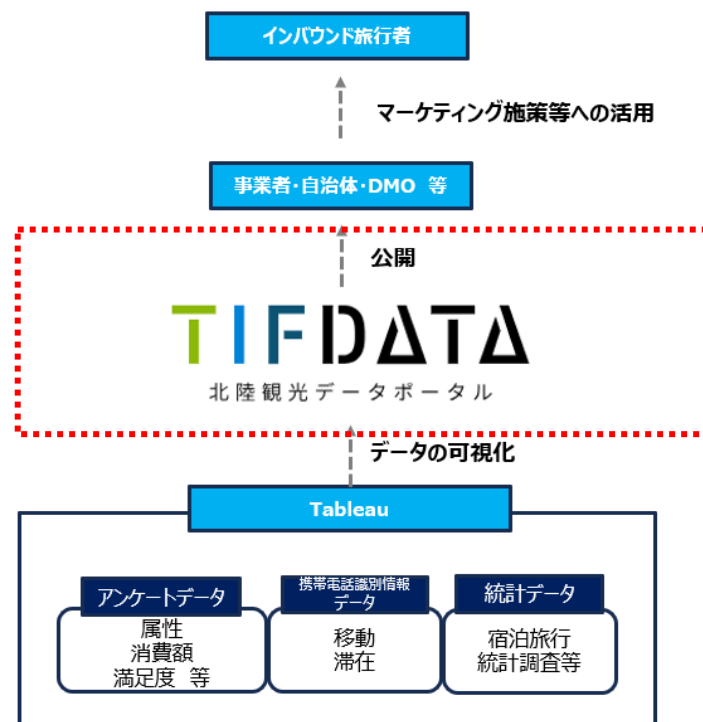
■ システム開発（TIFDATA）

● コンセプト・機能概要

TIFDATAは、観光業界や地域振興に携わる関係者を支援するためのデータプラットフォーム。独自データとして、QRコードアンケート、M5カプセル等を活用したデータを掲載します。さらに、官公庁やJNTO等行政・調査機関の信頼性の高いデータも一元化し、関連リンクを通じて広範な情報へのアクセスを提供するサイトです。

ウェブサイトは一枚構成で、PC・スマートフォン対応のレスポンシブデザインを採用し、ユーザビリティを重視。データリストやピックアップセクションで、必要な情報を効率的に参照できるほか、お知らせ機能を活用し 最新の情報を迅速に取得できるよう配慮しています。

● システム構成



※URL : tifdata.jp

4.実証事業

3.各取組の詳細

取組2.オープンデータ化、見える化、 BIツール化等の推進

■ システム開発（TIF DATA）

● UI・UX



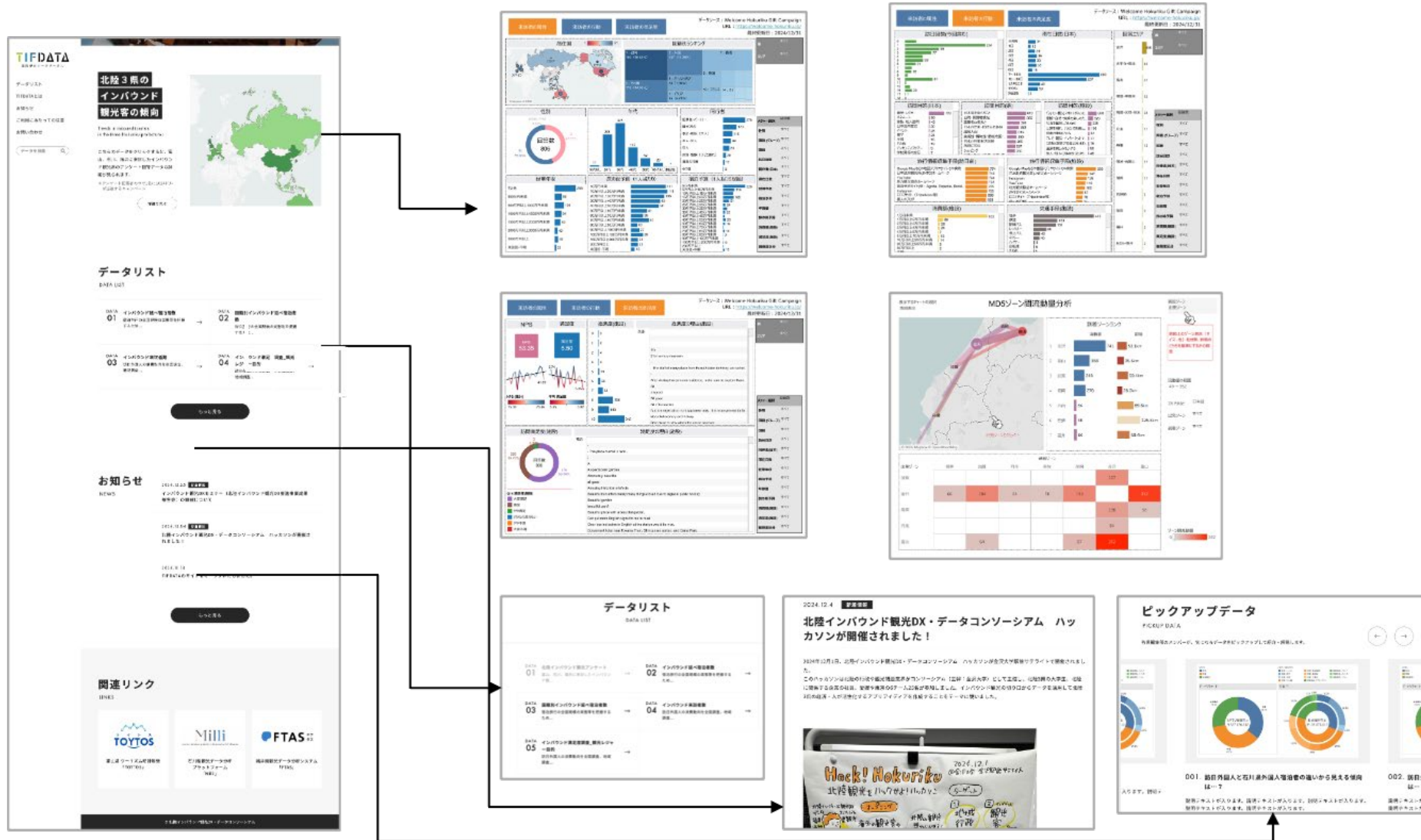
- ・ウェブサイトは一枚構成で、PC・スマートフォン対応のレスポンスデザインを採用しユーザビリティを重視しました。
- ・元データをTableauにより可視化しました。
- ・データリストやピックアップセクションで、必要な情報を効率的に参照可能にしました。
- ・ピックアップセクションはスマホユーザーのすきま時間等の情報取得にしました。
- ・深く調査したい方はPCからのアクセスをしていただきます。

コンテンツ

- ・独自データ：QRコードアンケート
- ・独自データ：M5カプセル
- ・データリスト
- ・ピックアップ
- ・お知らせ
- ・関連リンク

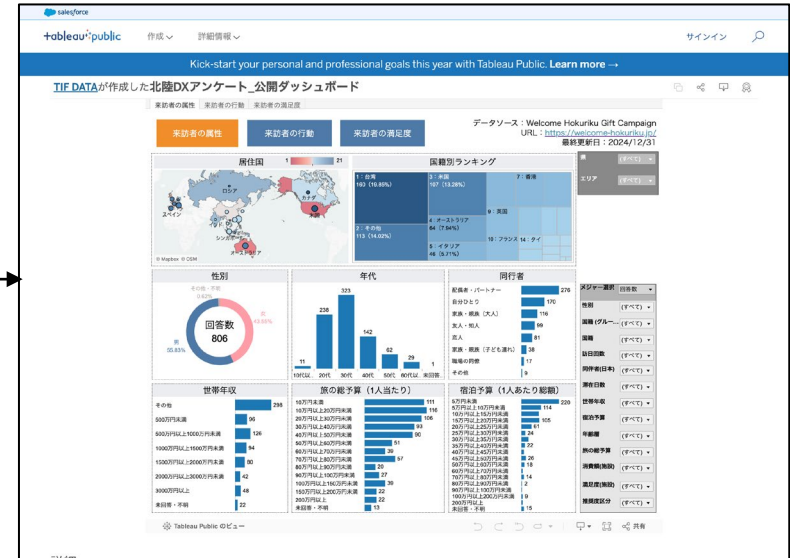
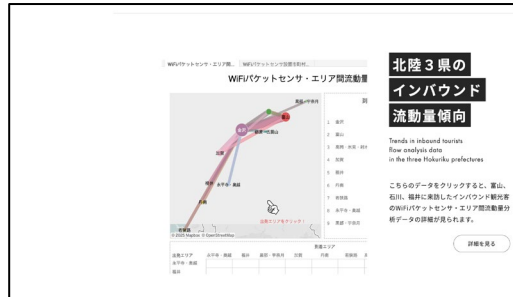
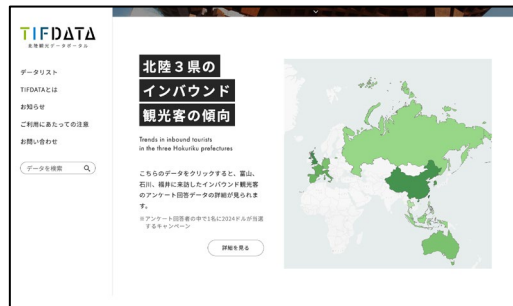
取組2.オープンデータ化、見える化、BIツール化等の推進

全体図

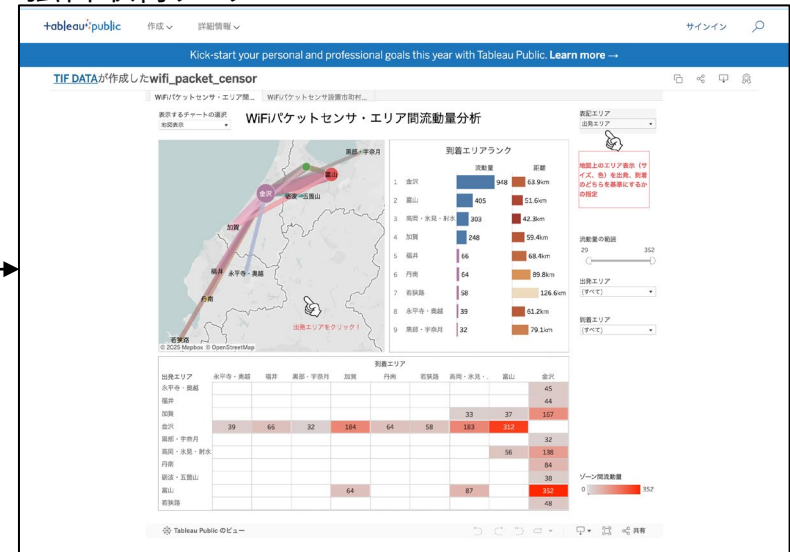


取組2.オープンデータ化、見える化、BIツール化等の推進

独自取得データ1



独自取得データ2



取組2.オープンデータ化、見える化、 BIツール化等の推進



データリスト
DATA LIST

DATA 01 訪米インバウンド観光アンケート 結果... →	DATA 02 観光バジェットセンター・エリア稼働 率... →
DATA 03 インバウンド延べ宿泊者数 観光旅行の全国規模の実態を把握するた め... →	DATA 04 国籍別インバウンド延べ宿泊者数 観光旅行の全国規模の実態を把握するた め... →
DATA 05 インバウンド延べ宿泊者数 観光旅行の全国規模の実態を把握するた め... →	DATA 06 インバウンド延べ宿泊者数、観光レジャ ー... →

もっと見る

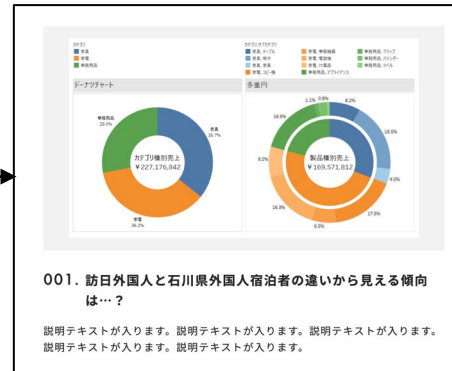
データリスト



データリスト1-6の6種類のデータに遷移

取組2.オープンデータ化、見える化、BIツール化等の推進

編集部のピックアップ記事



お知らせ



関連リンク

https://www.info-toyama.com/stories/toyama_tourismdata

<https://sites.google.com/view/milli-ishikawa-pref/>

<https://www.fuku-e.com/ftas>

4.実証事業

3.各取組の詳細

取組2.オープンデータ化、見える化、 BIツール化等の推進

オープンデータ化、見える化、BIツール化等の推進

取得したデータについて、事業者や行政が協働して使えるようオープンデータ化（共有財産化）することにとどまらず、産学官のそれぞれの立場から効果的に活用するため、各種手法を提案します。

1) オープンデータ化

国・自治体等が公開するオープンデータを活用し、地域のさまざまな課題のテクノロジーを通じた解決を目指すシビックテックの取組が、北陸地域では顕著です。これらシビックテックとの連携のもと、収集したデータの適切な形でのオープンデータ化を実施します。

1) 見える化・BIツール化

データをただオープンにするだけではなく、政策やビジネスへの活用を促進するため、さまざまな手法や切り口で解析を行い、見せ方も工夫する。専門企業等の参画の下、BIツールとしての在り方・活用方法を検討・実践します。更に、行政や地域内企業と連携し、実際の現場での活用を通じ、データの収集・活用の好循環を創出します。

1) 研究への活用

これまでに収集されることが無い広域にわたる各種データを基にして、大学での研究からインバウンドの観光行動についての新たな視点を獲得し、今後の誘客促進や経済効果への繁栄をもたらすべく、行政の施策や観光事業への活用を図ります。

4.実証事業

3.各取組の詳細

取組2.オープンデータ化、見える化、BIツール化等の推進

■ まとめ

- データポータルサイトには6,051UUのアクセスがあり、地域のデータ活用の機運上昇に貢献しました。事業者からは「アンケートデータ等から人気施設やこれまで気が付かなかったインバウンドの動向がわかりました。」などの反応がありました。コンソーシアム参画企業を中心に、事業者によるデータに基づいた来年以降の取組の改善を促していきます。

■ 目標

■ 結果

・データセット数（4つ以上）

Tableau化したデータセット数：6セット

■ 結果の推移

観測指標	数値	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	最終実績
北陸観光DXポータルUU数	1000	0	0	0	0	500	800	1000	1000
実績	(該当月までの累計)	0	0	0	0	62	1,548	6,051	6,051
進捗率(%)	%	0%	0%	0%	0%	1.2 %	193%	605%	605%
観測指標	数値	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	最終実績
データセット数	4つ以上	0	0	0	0	4	4	4	4
実績	(該当月までの累計)	0	0	0	0	1	5	6	6
進捗率(%)	%	0%	0%	0%	0%	25%	125%	150%	150%

4.実証事業

3.各取組の詳細

取組2.オープンデータ化、見える化、BIツール化等の推進

■ 注力した点・工夫した点

項目	主な活動	結果
各種データオープン化	オープン化にあたり、UI/UXを重視して設計しました。 ・ ウェブサイトは一枚構成のレスポンシブデザインを採用し、PC・スマートフォンの両方に対応しました。 ・ Tableauを用いてデータを可視化し、<u>ユーザー自らが自分が知りたい観点に基づいて属性を絞り込むなど自由に操作できるようにしました。</u> ・ データリストやピックアップセクションを活用し、<u>必要な情報を効率的に提供できるようにしました。</u> ・ ピックアップセクションはスマートフォンユーザー向けに更新し、すきま時間でも情報を取得しやすい設計としました。 ・ より詳細な調査を行いたい方には、PCからのアクセスを想定しています。	結果、想定どおりのユーザーの導線やアクセスを確保することができ、ユニークユーザーも目標値を上回る数値を得ることが可能となりました。 (6,051UU)
有効なデータ収集、オープン化	独自データと公的データを収集・データセット化し、オープン化しました。M5カプセル、QRコードアンケートに加え、JNTOや観光庁のデータも活用し、Tableauで可視化することによって、事業者が活用しやすい形でTIFDATA上に展開しました。 データをもとに、答えや仮説を導くための議論や時間に苦労した。また、その仮説が公開できるか審議するプロセスも必要だったので、慎重に取り組む必要がありました。	結果、想定どおりのユーザーの導線やアクセスを確保することができ、ユニークユーザーも目標値を上回る数値を得ることが可能となりました。 (6,051UU) Tableauでの可視化につながり、ポータルサイトへの掲載につながった。結果としてコン各県事務局も北陸3県一体となった視点での議論ができるようなオープンデータとなりました。

4.実証事業

3.各取組の詳細

取組3.データの社会実装及び必要な環境の整備

目的：〔取組1〕〔取組2〕の成果を活用し、北陸三県での一体的な観光振興・インバウンド対策の強化に向けた具体的な取組を生み出すことを目的とします。

- アプローチ： 1. WGを設置し、観光データの活用方策や必要なデータの種類等について議論する
2. 本事業での取得データを分析し、インバウンド観光客に係る北陸3県での共通ターゲットの検討や、事業者による観光コンテンツの磨き上げ等に繋げる
3. 本事業に参加する3県の産学官が連携して、次年度以降に行う取組を創出する

取組概要：

① 3県共通のオープンデータの収集・理解・議論

観光データや関連取組を集約・発信するDMP（Data Management Portal）の構築に向けて、3県事務局とコンソーシアム事務局からなるWGを週1回の頻度で開催しました。

定期的に進捗確認を行うことを通じ、今後のデータ活用の在り方はもちろん、データのオープン化の範囲や様式（クレンジングの方策など）、次年度に向けた事業化・予算化（M5カプセルを用いた自治体での新規予算の獲得、各主体による取得データのTIFDATAへの反映・分析など）、地域一体となった活用方策の将来像（地域DMOの形成など）といった、今後どのような形でデータを活用していくかについて様々なアイデアを出し合ったり、具体的な方策についての検討を行いました。

② 事業者によるデータ分析

収集したデータや関連する観光データの理解を促進するため、セミナーの開催や事業者に直接説明する場を設けました。事業者からは「アンケートデータ等から人気施設やこれまで気が付かなかったインバウンドの動向がわかりました。」などの反応がありました。

③ 3県の産学官連携の促進

WGでの議論や各県庁・県観光連盟との意見交換を重ねることで、観光データについて共通の基盤で取得から分析・活用の検討に至るまでの活動をできる体制を一時的に構築できました。次年度以降も継続して取組を行うことの合意形成を図るとともに、本コンソーシアムの代表機関である金沢大学においても受け皿となる体制を構築するための準備を進めています。

4.実証事業

3.各取組の詳細

取組3.データの社会実装及び必要な環境の整備

■ まとめ

- 各県事務局とのやり取り等を通じ、事業者等における観光データの活用の萌芽を発掘しました。
- 各県における次年度事業の検討に本事業での成果を活用するとともに、三県の産学官連携でのデータ収集・検討・活用基盤の構築を次年度実施する予定です。

■ 目標

・合意形成のための協議・会議を
月1回以上実施

■ 結果

・合意形成のための協議・会議を毎月4回以上実施し、
合計34回実施

■ 結果の推移

観測指標	数値	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	最終実績
合意形成のための 協議、会議	月1回以上	1	1	1	1	1	1	1	7
実績	(該当月までの 累計)	7	6	4	4	5	4	4	34
進捗率(%)	%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

4.実証事業

3.各取組の詳細

取組3.データの社会実装及び必要な環境の整備

■ 注力した点・工夫した点

項目	主な活動	結果
次年度以降の3県での取組・事業者のデータ活用検討	これまで大学主導で3県が一体となる取組はなく、次年度以降のデータ活用に向け、実証事業ではデータの確実な取得と質・量の確保を重視した。その上で、各県庁や事務局が活用を検討する中で、データの信頼性や取得コスト、技術の発展可能性について議論し、共通理解を得ることに労力をかけました。	次年度は、北陸の国立4大学と北陸経済連合会による産学連携推進事業として設置された「北陸未来共創フォーラム」内にワーキンググループを設置し、金沢大学が事務局として産学官と連携し、データ活用の議論を深めていきます。その中で、基本的には個々の主体が自主的にデータ取得・活用の施策や取組を進めることとしつつ、連携してすべきことはWGも活用しつつ効果的な推進を目指します。
3県連携の体制構築	本事業では、産学官16団体が連携し、観光データの取得・分析・活用基盤を一時的に構築した。継続に向けた前向きな意見が多く寄せられる一方で、産学官の言語や行動原理の違いを考慮した枠組みづくりや、必要な活動の予算確保について慎重に検討し、次年度以降の連携体制を議論した。	「北陸未来共創フォーラム」に、次年度から「観光DX推進WG（仮称）」を設立する検討を進めています。金沢大学が幹事校となり、本事業に参画した3県庁や観光団体、各県地方銀行と連携し、観光DXや共通の観光プロモーションについて議論を進めます。

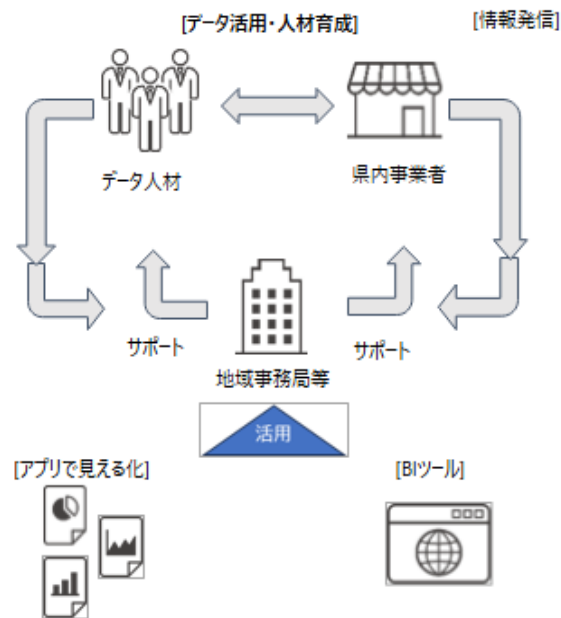
4.実証事業

3.各取組の詳細

取組4.データリテラシーの高い人材の育成

- コンセプト・機能概要

データ人材育成を推進するため、TIFDATAのデータを通じ、事業者とコンソーシアムの連携を深める取組や、ハッカソン等の若手人材のデータ分析スキルを育成する実践的なプログラムを実施します。



ハッカソンの開催: 学生を対象に、データ分析や活用の実践的スキルを養うためのハッカソンを開催し、若手人材の創造的な問題解決能力を育成します。

データ報告会の実施: 北陸三県の観光事業者を中心にデータ報告会を開催し、データに関する理解と必要性と協力体制を向上させます。事業者向けの個別勉強会も実施します。

コンソーシアム参画企業のボトムアップ: 参画企業自体のデータ活用能力が本実証事業に取り組むことで、向上するよう、環境を構築します。

4.実証事業

3.各取組の詳細

取組4.データリテラシーの高い人材の育成

データ活用リテラシーの向上は、産学官それぞれにとって不可欠であるため、北陸地域内でデータ人材の育成を一体的に推進するため、以下の取組を実施しました。

Hack!Hokuriku 北陸観光をハックせよ！

～データで拓く未来の観光～を開催

日 程：2024年12月1日（日）10:00～17:30

対象者：観光やデータ利活用に関心がある学生エンジニア、デザイナー（社会人も可）

会 場：金沢大学駅前サテライト

参加者：北陸3県の大学生、北陸に関係する企業の社員、愛媛や東京の6チーム25名が参加



インバウンド観光の切り口からデータを活用して北陸3県の経済・人が活性化するアプリアイデアを作成することをテーマに競われ、以下のアイデアのアプリが企画された。参加した学生からも「事業者のニーズを深く知ったうえで仮説立ててアプリを企画する事ができた」「データによってインバウンドの動向を把握可能になったうえで、企画ができて有用だった」「いつか事業者や地域の役に立つアプリを本格リリースしたい」といった感想が聞かれました。

【企画されたアプリ一覧】

- ・店舗レベル育成ゲームを通じて外国人へのサービスレベルを向上させるアプリ（最優秀賞）
- ・観光地の魅力を再発見するアプリ
- ・HOKURIKU Mystery Tour
- ニッチだけど価値のある場をパーソナライズして訪問するきっかけを作るアプリ
- ・Macトラベル 旅先での次の訪問地をおすすめするアプリ



4.実証事業

3.各取組の詳細

取組4.データリテラシーの高い人材の育成

データ活用リテラシーの向上は、産学官それぞれにとって不可欠であるため、北陸地域内でデータ人材の育成を一体的に推進するため、以下の取組を実施しました。

インバウンド観光DXセミナーを開催

日 程：2025年1月22日（水）10:30～12:00

対象者：事業者、行政関係者など

会 場：オンライン（アーカイブ配信あり）

本事業で調査したデータの分析結果を学術的視点とビジネス視点で説明を分け、今後の観光データ活用の可能性等を広く周知できました。

<セミナープログラム>

10:00～10:35 本事業の概要説明／秋本純一 観光庁 参事官（産業競争力強化）付 専門官

10:35～10:50 北陸インバウンド観光DX推進事業の説明／今 洋佑 金沢大学先端観光科学研究所 特任准教授

10:50～11:20 観光科学の観点から読み解くインバウンド観光データ／森崎 裕磨 金沢大学先端観光科学研究所 助教

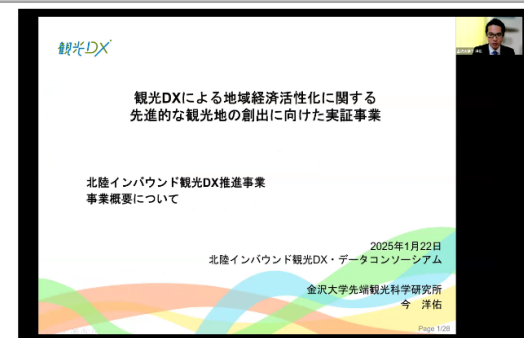
11:20～11:40 アンケート調査結果を踏まえたデータマーケティングのガイド／佐竹 正範 北陸インバウンド観光DXデータコンソーシアム事務局

11:40～11:45 北陸観光データポータルサイト「TIF DATA」についての説明／田中 直史 北陸インバウンド観光DXデータコンソーシアム事務局

11:45～12:00 意見交換

<参加者の感想>

観光DXに関する理解が深まりました。もっと北陸全体に広がることを期待しております。



4.実証事業

3.各取組の詳細

取組4.データリテラシーの高い人材の育成

■ まとめ

- ハッカソン、セミナーにおいては、教育や事業等、それぞれの視点から多くの参加者を得られたことから、本事業において収集したデータの有用性や、今後の観光データ活用の可能性等を広く周知でき、有為な人材に新たな機会を与えることができました。

■ 目標

・データ活用に参画した事業者数
(3県で20以上)

■ 結果

データ活用に参画した事業者数 29

■ 結果の推移

観測指標	数値	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	最終実績
データ活用の 取組に参画した 事業者数	3県で20以上	0	0	0	0	20	20	20	20
実績	(該当月まで の累計)	0	0	0	0	3	3	29	29
進捗率(%)	100%	0%	0%	0%	0%	15%	15%	145%	145%

4.実証事業

3.各取組の詳細

取組4.データリテラシーの高い人材の育成

■ 注力した点・工夫した点

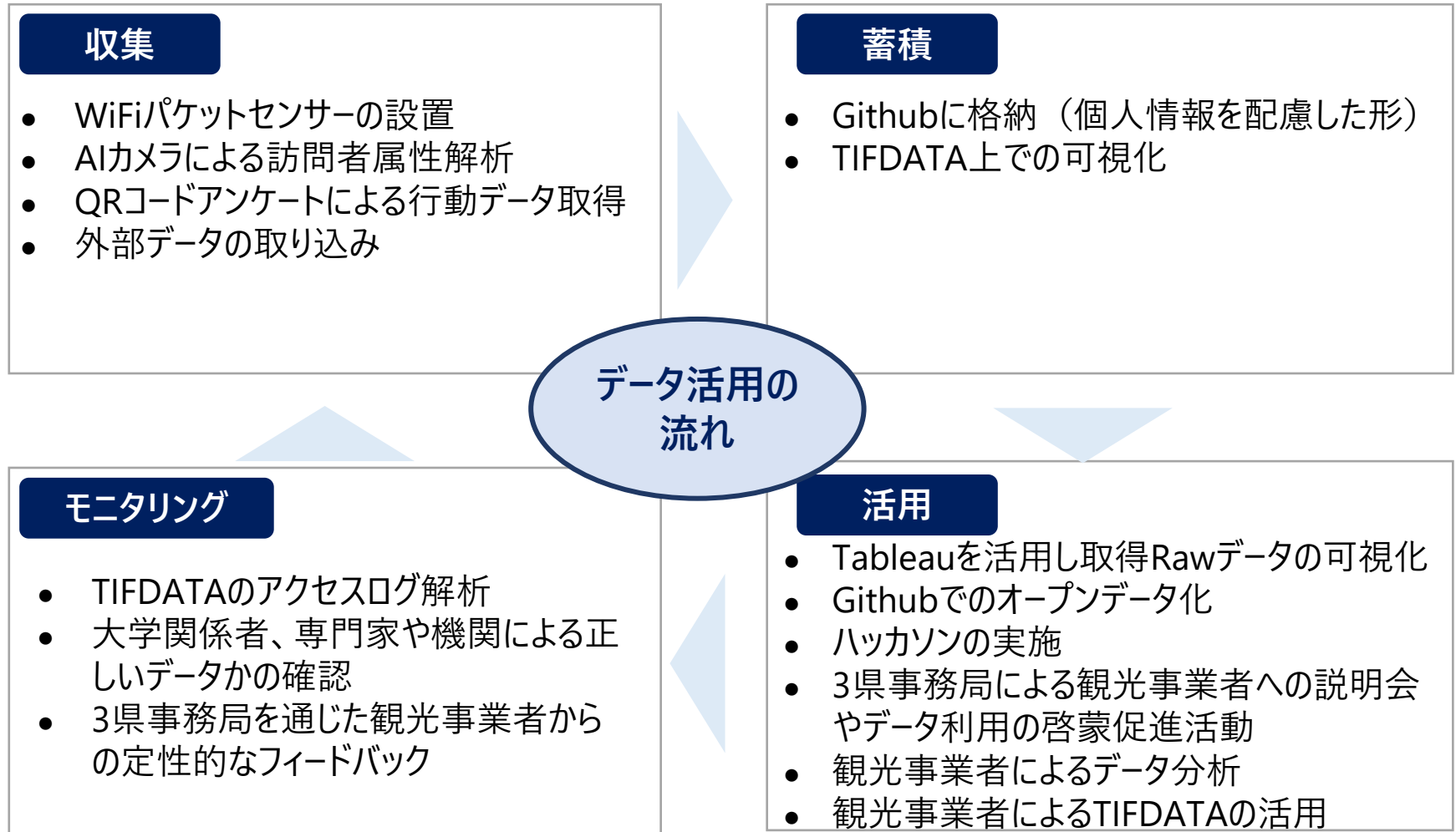
項目	主な活動	結果
データ活用勉強会の実施	3県広域であるため各事業者を一同に会することが難しかった。そのため、データ活用勉強会はオンライン開催し、アーカイブ配信も実施しました。学術的視点とビジネス視点で説明を分け、各県事務局のネットワークを活用して3県に広く参加を呼びかけました。	説明会当日の参加者は43の機関から77名で、多くの方に参加していただきました。また、アーカイブ配信の視聴数も1週間で75回ありました。
データ活用事例創出	取得したデータの説明や見方を紹介するセミナーを実施しました。 各県事務局が観光事業者に対して個別でレクチャーを行いました。	事業者ヒアリングを行い、以下のコメントをいただいた。 「日本人と異なる消費動向に注目している。リアルなニーズをアンケート等から読取り、インバウンドの誘客に生かしていきたい。」 「肌感覚を、観光データで裏付けることが出来れば、自身を持ってマーケティング活動を行え居ます。今後はデータを根拠に、旅行者に配付するパンフレットの更なる多言語化を進める等、インバウンドの満足度向上に努めたいと考えています。」

4.実証事業

3.各取組の詳細

取組1-4.インバウンド観光データの網羅的な収集・把握

データ活用の流れを示します。



5.総括

5.総括

1.実証事業の成果

実証事業の総括と成果を示します。

■ 実証事業の総括

北陸3県の産学官16団体で構成されるコンソーシアムを運営し、広範囲にわたり、これまでにない動態データとアンケートデータを取得できました。異なる立場の地域が連携し、データの見える化・活用の議論を行い、産業振興と研究推進を両立するオープンデータ化と見える化を実現することができました。ハッカソンやセミナーなどによりも実施し、次世代のデータ人材の育成もおこなうことができた。事業者からはデータに基づいて来年以降の取組の改善に役立てたいとの声が聞かれました。

KGI

目標値 北陸観光データポータル（TIF DATA）ユニークユーザー数 1000UU（累計）

成果 北陸3県の事業者や行政等によるデータを活用した観光振興の基盤を構築する

取組1	取組内容	目標	結果	頁
	インバウンド観光データの網羅的な収集・把握	・MACアドレス関連情報による 動態データ 取得 (50か所以上) ・QRアンケートの有効回答数（1万以上）	・MACアドレス関連情報による 動態データ取得(79か所) ・QRアンケートの有効回答数（840）	P.34
取組2	オープンデータ化、見える化、 BIツール化等の推進	データセット数（4つ以上）	・Tableau化したデータセット数（6セット） ・TIFDataアクセス数（6,051UU） ・githubにアップしたデータ数（3種類）	P.47
取組3	データの社会実装及び必要な環境の整備	合意形成のための 協議・会議を月1回以上実施	・合意形成のための協議 ・会議を毎月4回以上実施し、合計34回実施	P.50
取組4	データリテラシーの高い人材の育成	データ活用に参画した事業者数（3県 で20以上）	データ活用に参画した事業者数 29	P.55

5.総括

1.実証事業の成果

勉強会での事業者からの声

12/26芦原温泉旅館組合（旅館経営者 6 名）およびあわら市観光協会 ※福井県の主要宿泊地域

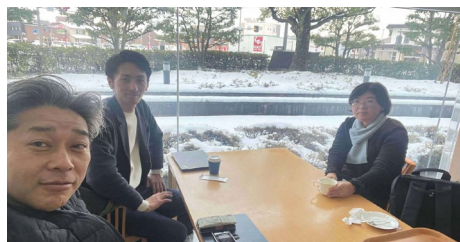
- ・あわら温泉地域としてのターゲット設定に役立てられそう。
- ・北陸における金沢のインバウンドのボリュームを数値であらためて実感。金沢-京都におけるあわら温泉宿泊のツアープランを準備し営業していきたい。
- ・北陸の位置づけ、その中での福井の位置づけを考えていきたい。
- ・民間サイドとしては、行政サイドの施策が見えづらい部分もある。このようなデータをもとにした話し合いや連携ができるとよい。

1/10福井県通訳案内士協会（同協会会長 1 名）※インバウンドのリアルな動向を把握

- ・兼六園-金沢城公園-尾山神社のコースはガイドの際にも主流であり、アンケートにも反映されているかもしれない。21世紀美術館閉鎖期間の影響で、旅行会社のクルーズツアーの行程とされることができた。
- ・満足度が高い要因としては、北陸地域が混雑していないこともポイントと感じる。
- ・旅ナカの情報収集について、翌日の予定等を自分の現在地をベースにGoogleで検索している姿が多く見受けられる。

1/10ふくい観光案内所（同案内所所長 1 名）※インバウンドのリアルな動向を把握

- ・今回のアンケート回答者は個人旅行の方中心と思い、観光案内所利用者と重なると思うが、アンケート結果と現場感覚は概ね一致していると感じる。
- ・情報収集においては、SNS利用が多いと感じており、観光案内所へ来られた方もSNSの写真を案内所スタッフに見せながら質問している姿も多く見受けられる。
- ・案内所では各地の外国語パンフレットも使用しながら対応しているが、アンケートデータ等から人気の施設や案内所スタッフが気づいてないインバウンドの動向がわかりました。とより参考になる。



データポータルサイトを閲覧した事業者からの声

◆金太郎温泉（旅館経営者） 富山県魚津市

「につぼんの温泉100選」にも選ばれた当館の魅力を海外に伝えるため、予約ウェブサイトの多言語化等に 取り組んでいます。現在、宿泊者全体の1割程度をインバウンドが占めており、その増大をH指す上で、観光データは貴重な指標になります。例えば、月ごとの宿泊者数の推移は、ダイナミックプ ラ イシングや閑散期を埋める販促計画等に役立つのではないのでしょうか。また、8本人とは異なる消費動向に注Hしています。当館でも浴衣を欲しがる外国人の多さに驚きました。そうしたリアルなニーズをアンケート等から読み取り、インバウンドの誘客に生かしていきたいと思います。

◆武家屋敷野村家（代表） 石川県金沢市

「野村家」を訪れるインバウンドはコロナ前より増加しており、2024年は日 本人旅行者を上回りました。特に家族連れが目立つのが最近の特徴です。国籍で見ると、石川県全体では台湾が圧倒的ですが、野村家ではアメリ カやイタリア、フランス等欧米からの旅行者が目立つように感じています。こうした肌感覚を、観光データで裏付けることができれば、自信を持ってマーケティング活動を行えます。今後はデータを根拠に、旅行者に配付するパンフレットのさらなる多言語化を進める等、インバウンドの満足度向 上に努めたいと考えています。

5.総括

1.実証事業の成果

KGI・KPIの進捗を各月ごとにお示します。

	目標項目	数値	各月の目標値・実績							最終 実績
			7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
KGI	DMPのユニーク ユーザ数	1,000人	0	0	0	0	500	800	1,000	1,000
	実績	(該当月までの 累計)	0	0	0	0	62	1,548	6,051	6,051
	進捗率(%)	100%	0%	0%	0%	0%	1.2 %	193%	605%	605%
KPI	データ セット数	4つ	0	0	0	0	1	5	6	6
	進捗率(%)	100%	0%	0%	0%	0%	25%	125%	150%	150%

5.総括

1.実証事業の成果

実証事業によって地域に与えた影響を複数の観点ごとにお示します。

取組1.インバウンド観光データの網羅的な収集・把握

- ・ 北陸三県で共通のデータの取得体制を構築できることを確認し、データ活用の機運を醸成しました。
- ・ 学術的要素を含めた観光動態データの取得に成功。離れたエリア間での周遊動態の把握や、世帯年収による来訪者国籍の違いなど、興味深い結果を数多く取得しました。

Ⅲ 観光地経営の高度化

取組2.オープンデータ化、見える化、BIツール化等の推進

- ・ 地域にあたえた影響：事業者からは「アンケートデータ等から人気施設やこれまで気が付かなかったインバウンドの動向がわかりました。来年度以降の改善の内容にしたい。」などの声が聞かれました。コンソーシアム参画企業を中心に、事業者によるデータに基づいた来年以降の取組の改善を促していきます。

Ⅱ 観光産業の生産性向上

Ⅲ 観光地経営の高度化

取組3.データの社会実装及び必要な環境の整備

- ・ これまでにない観光動態データの見える化やオープン化について議論し、一定の形を示すとともに、今後の課題も確認しました。また、TIF DATAの公開を通じ、旅行者の利便性向上や観光地経営の高度化等に資するデータを提供することができました。
- ・ 各県事務局とのやり取り等を通じ、事業者等における観光データの活用の萌芽（周遊促進のためのプラン開発、事業者におけるデータ活用の支援事業の検討など）を発掘しました。
- ・ これまで実施インバウンドのアンケート結果を得ることができ、インバウンドを対象としている事業者への勉強会を企画できるなど、今後の展望が広がりました。
- ・ WiFiパケットセンシングは宿泊を伴わない移動も把握でき新規性がある調査であり、その結果を政策等に反映していきたい等の声がありました。

Ⅲ 観光地経営の高度化

取組4.データリテラシーの高い人材の育成

- ・ 教育や事業等、それぞれの視点から多くの参加者を得られたことから、本事業において収集したデータの有用性や、今後の観光データ活用の可能性等を広く周知でき、北陸の観光地経営の高度化に資するような有為な人材に新たな機会を与えることができました。

Ⅳ 観光デジタル人材の育成・活用

5.総括

1.実証事業の成果

■ 3 県連携で得られた効果

主な活動	結果
北陸三県の産学官が連携し、これほど大規模かつ労力を要する共通のデータ取得に取り組むのは初めての試みでした。さらに、取得を目指したデータはこれまでに扱ったことのない、学術的にも先端的で野心的なものとなりました。そのため、本事業を推進するためには大きな調整コストを要しました。	多大な調整コストをかけながら事業を一体的に推進した結果、参加組織間の連帯が強まりました。また、三県連携の新聞広告やセミナー開催などを通じて観光DXへの機運を高め、北陸全体で観光DXを推進するための基盤づくりを加速できました。
本事業では、収集したデータのオープン化、可視化、アカデミックな分析の3つを実施し、それを基に政策への反映や事業者による活用を目指しました。これらのプロセスにおいては、三県の県庁や各県の事務局を担当した地銀の皆さんと密に意見交換を重ねることを重視して進めました。	三県それぞれの異なる立場や状況を考慮し、特定の地域に偏ることなく北陸全体を視野に入れた分析を行いました。その結果、各地域の動向を改めて把握・解釈し、より広がりや深みのあるデータ活用が可能となりました。 この取組により、次年度以降の各県における政策活用（例：石川県にて観光地混雑対策の一環でM5カプセルを活用する予算案を作成）の検討や、三県連携の継続（ワーキンググループの設置など）につながる成果が得られました。
今回のコンソーシアムでは、観光事業者の協力を得るため、地域経済に深く関わる地方銀行（北國銀行、北陸銀行、福井銀行）に各県の事務局を担当してもらい、そのネットワークを活用しました。 また、実証事業の開始直後から終了まで、3県の事務局と週次でミーティングを実施し、情報共有や報告、相談が円滑に行える体制を構築しました。	この取組により、DMPに関しては幅広い事業者から意見を収集でき、ユーザーが求める情報を深く理解する貴重な機会となりました。 事業者からは、自社の課題解決やビジネスへの活用を期待する声が多く寄せられました。具体的には、事業者が求めるデータやトレンド、顧客動向、成功事例などを分かりやすく編集・記事化し、情報を充実させること。また、地域単位だけでなく、施設単位の詳細なデータを閲覧しやすくすることや、Tableauの活用方法を解説する記事の提供などが求められました。

5.総括

2.今後の展望

今後の更なる推進に向けて、認識された主な課題点や展望は以下のとおりです。

観光データの活用の在り方

- データ（数値）は必要であるが、そのみでは戦略は立てられません。
- データは表面的なものであり、データ化には限界があるなかで、数値の裏に隠れているものも理解していく必要があります。（現場ヒアリング等で背景情報を取得することも有用）

オープン化（データベース化）の難しさ

- データの種類によっては、生データをそのまま使えず、整形（クレンジング）やそのための背景知識（ノウハウ）の取得・共有が必要です（様々な立場の視点を踏まえた議論が必要）。
- ひとえに「オープンデータ」と言っても、誤解を招く処理や見える化を避けるためにも、データの意味や、データに施されている前処理の情報を付加することが肝要です。

産学官によるコンソーシアムの難しさ

- 各主体における仕事環境や、その手前の言葉の定義・業界の常識等が異なる中で、同じ目線で事業を推進することには困難が多いが、その分達成できる成果も大きいです。
- 言葉の裏側にある思考（回路）を把握してコミュニケーションすること、相手の立場や役割へのリスペクトを常に持つことが必要です。

- 次年度以降、本事業での成果や枠組みを活用し、北陸3県での産学官によるワーキンググループの中で、更なるデータの取得や活用、観光事業者の巻き込み、北陸一体となったマーケティングのあり方等について検討を進めます。
- 各県における次年度事業の検討に本事業での成果を活用し、一部は次年度予算として実施する予定です。
- 「北陸未来共創フォーラム」を活用し、三県の産学官連携でのデータ収集・検討・活用基盤の構築を次年度実施する予定です。

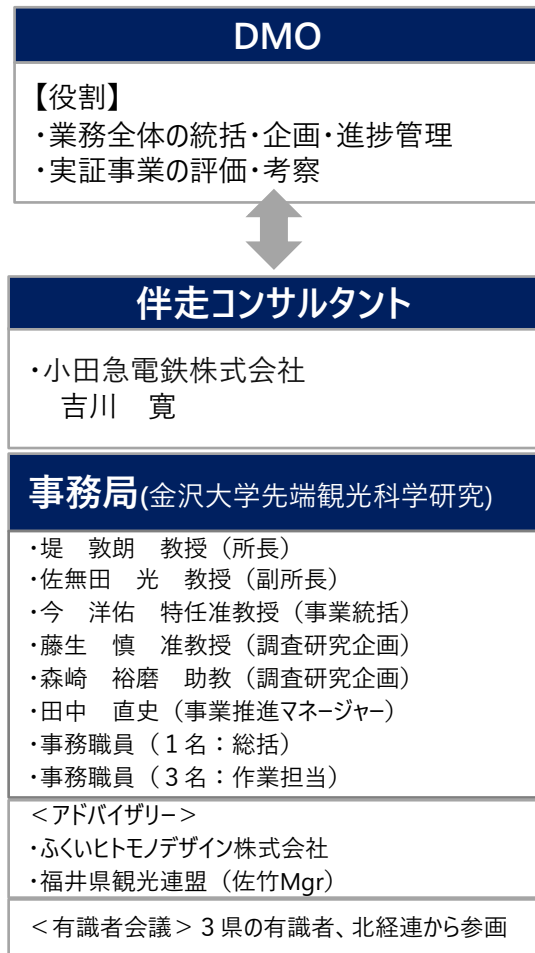
6.実施体制

6.実施体制

1.体制図

本実証事業を推進した実施体制や役割分担を示します。

(代表団体) 金沢大学先端観光科学研究所



地域内関係者

株式会社北陸銀行	・富山県事務局 ・データ収集・成果活用
株式会社 CCイノベーション	・石川県事務局 ・データ収集・成果活用
株式会社福井銀行 ふくいヒトモノデザイン株式会社	・福井県事務局 ・データ収集・成果活用
富山県、とやま観光推進機構 石川県、石川県観光連盟 福井県、福井県観光連盟	・データ活用
富山大学 福井大学 金沢大学	・データ分析・研究・教育
株式会社B inc.	・コーディネーション

地域外関係者

株式会社地域創生 Coデザイン研究所	・BIツール開発・活用
-----------------------	-------------

■その他、地域、会社等

・福井放送株式会社 DX推進局DX推進部
QRアンケート協力施設159社、M5カプセル設置協力施設71社

7.おわりに

7.おわりに

本事業の実施に当たっては、様々な新規要素・高難易度要素があり、当事者としても大変チャレンジングな取組と自覚していましたが、何とか走りきることができ、安堵しています。

- 事業の実施規模
（北陸 3 県、産学官をまたぐ16団体によるコンソーシアムの運営）
- 調査の新規性
（特にM 5 カプセルは技術自体も発展の過程にあり、3県79か所という広範囲・多地点への設置は学術的にもまったくの新しい挑戦）
- 見える化・分析・活用の難しさ
（立場の異なる 3 県（県内でも地域によってインバウンド観光への立場は大きく異なる）が連携して、一つの形でデータを見せて、活用する議論には慎重さと大胆さが必要です）
- オープンデータ化
（大学の知見を活用することで、これまでにないデータを取得・分析することが可能となる一方で、論文発表を必要とする大学の立場と、広くデータ活用・オープン化を推進する産業振興側の立場を両立する極めてセンシティブな検討の必要性が明らかとなり、今後引き続きの課題と言える）

このように、成果を出せるかどうか不確定な部分が多分にあった本事業を（果敢にも）採択いただき、実施に当たり様々なご助言やご助力を下さった観光庁（及び関連の）皆さまや、負担は多いが成果は見えにくい本事業に協力いただいた北陸 3 県の皆さまに、心からお礼申し上げます。